

なにわ

大阪

研究

第 3 号



大阪城
繪

関西大学なにわ大阪研究センター

なにわ
大阪
研究
第 3 号

目 次

研究ノート

| | | |
|--|-------------------------|----|
| 関西大学図書館蔵契沖和歌資料二軸…………… | 乾 善 彦 | 1 |
| 高松塚古墳 VR 体験コンテンツの開発…………… | 奥 村 茜 寺 田 楽 林 武 文 | 9 |
| コロナ禍における大阪の生活者と生活協同組合 ～大阪いずみ市民生活協同組合を中心に…………… | 杉 本 貴 志 | 23 |
| 表紙にちなんで…………… | 橋 寺 知 子 | 37 |
| なにわ大阪研究センター研究プロジェクト…………… | | 41 |
| 投稿規程…………… | | 43 |
| 編集後記…………… | 乾 善 彦 | 45 |

表紙：赤松麟作『大阪三十六景』より「大阪城」
裏表紙：赤松麟作『大阪三十六景』より「濱寺公園」

Contents

Research Notes

| | | |
|--|--|----|
| A commentary on two hanging scrolls of Keichu's waka poems written by himself; which Kansai University Library possesses. | INUI Yoshihiko | 1 |
| Development of VR content for the Takamatsuzuka Kofun experience | OKUMURA Akane TERADA Gaku HAYASHI Takefumi | 9 |
| Consumers and Co-operative Society in Osaka under the COVID-19 crisis. | SUGIMOTO Takashi | 23 |
| Cover Art: 36 Views of Osaka by Akamatsu Rinsaku: Osaka Castle | HASHITERA Tomoko | 37 |
| Research Project | | 41 |
| Submission Guidelines for Naniwa-Osaka Studies | | 43 |
| Editorial Note | INUI Yoshihiko | 45 |

関西大学図書館蔵契沖和歌資料二軸

乾 善 彦

はじめに

関西大学図書館には、浪華の学僧契沖にかかわる資料が数多くおさめられており、以前、拙稿「関西大学蔵契沖関係書あれこれ」(関西大学アジア文化研究センターディスカッションペーパー Vol. 10、2015.3)に、そのあらましを紹介した。その中で、契沖の和歌に関する資料としては、以下の書目をあげている。

【歌書】

- 1、三家私歌集 911.2608 S1 1~3 (上、長嘯 中、長流 下、契沖)
- 2、漫吟集 L24 16-120-B〈刊〉文化10年 西宮彌兵衛・英平吉
- 3、詠富士山百首和歌(詠百首富士山和歌)
 - ①F4 911.26 K1 1〈刊〉寛政12 河内屋喜兵衛
 - ②L23 900 7478〈刊〉寛政11 萬屋太治右衛門
- 4、類字名所捕翼抄 C911.26 K1 1-1~4
- 5、類字名所外集 C911.26 K1 2-1~3

その後の調査で、さらに次の一書が確認されている。

- 6、一題一首和歌 C911.257 II-1

これは、『契沖全集 第十三巻 和歌』に翻刻と写真一葉がおさめられおり、先の調査で見落としていたものである。

また、軸物として、当該年度に収集された「契沖蓮歌歌稿」(N8C2*911.15*1)を紹介しているが、2019年度にもう一軸、「立春七首」と題するの和歌軸が加えられた。

本稿は、この軸物二軸について、この度KU-ORCASにおける撮影にともなって調査した、その結果を報告するとともに、若干の考察を加え、今後の研究のための足掛かりとするものである。

契沖の和歌については、その評価はそれほど高くない。契沖が本居宣長に見出されて高い評価を受けるようになったことについては、拙稿「宣長の見た浪華の学僧契沖」(大阪女子大学上方文化研究センター研究年報2号、2001.3)において論じた。その時にふれたことだが、契沖の古典研究に対して高く評する宣長であったが、契沖の和歌に対する評価は、以下のように、やや辛辣なところがある。

ココニウラムラクハ詠歌ノツタナカリシハ、アマリ歌学ノ方ニ心ヲ用ヒ古風ニノミヨルホドニ、ヲノヅカラ歌ハサマデナカリシナルベシ。契沖ハトカク万葉以上ニヨルトミエテ、古今ナドヲサヘ少シハ誤モアルヤウニ思ヘリトミュ。(『排蘆小船』古ノ名歌ドモニ)

宣長は、契沖と下河辺長流の歌を抄出しているが、その奥にも、

右、林葉累塵集、すべての歌のさま、俳諧にちかく、詞も優にはあらず、調高からず。しかれども、なべての詞づかひの上手にて、古へに露もかはらず、一首も近代のいやしきふりは見へずなんある。かゝれば、ちかき世の人はこのまぬふりなるべけれど、又、ちかき世の公家たちのかけてもおよばぬ所あり。されば、此うへに今少し詞を優に調べを高くせば、最上乘たるべし。今、右に抄出せるは中に難なくおもしろきかざりをえれる也。(宣長筆『林葉累塵集契沖長流二家集抄出』奥書)

と記しており、長流・契沖の和歌に対する評価の一端が見受けられる。清水濱臣が文化十年版『自撰漫吟集』の序文に

抑歌は人々の心々をいひあらはすものなれば、かゝる姿もをかしきを、中には誹諧めきけるがあるをみて、そゞろたかゝらぬやうにいひなし、おもひおとす人もあるこそ、かへりていかにぞやおほゆれ。

と契沖の歌風を弁護するような記述があるのも、宣長のこのような言を受けてのこととおもわれ、それが当時のおおかたの評価だったとおもわれる。

しかしながら、契沖は十七才のころから和歌を詠みはじめ、生涯に数多くの和歌を残している。自撰の『漫吟集』は内題の記述によると延宝九(1681)年、契沖四十二歳の時の撰で515~520首(本によって若干出入りがある)をおさめ、最終的には『漫吟集類題』として6034首をおさめる。その数の多さは近世の私家集の中でも群を抜いたものである。濱臣はこの時期、長流・契沖の家集を積極的に刊行しており、ひいき目にみている面もあるだろうが、たとえば古今六帖や歌仙家集の風といい、また、風雅玉葉の風をとみいうように、その歌風を評価する発言するには、それなりの理由があったものと考えられる。後世の評価もみても、決して高い評価というものではないが、濱臣が指摘した歌風については、たとえば『契沖全集 第十三巻 和歌』の解説のように、新古今風とか玉葉風とかさまざま側面のあることが論じられている。

死後ではあるが、公刊された版本も決して少なくない。自選家集『漫吟集』としては、

自撰漫吟集(契沖和歌延宝集) 文化十(1813)年

龍公美本漫吟集 天明七(1787)年

漫吟集類題 文化十二(1815)年

があり、それ以外にも、版行されたものとして、長流との贈答歌をおさめる『和歌唱和集』(文化十二年)、詠富士山百首和歌(寛政十一年版と寛政十二年版の二種の版がある)がある。

自撰『漫吟集』は、長流の家集に加えて木下長嘯子の家集と合わせられて三家和歌集として伝わるのが原形だと考えられる(『契沖全集 巻十三 和歌』解説:638頁)。

関西大学図書館蔵『三家私家集』(911.2608 S1 1~3、写本3冊、国書総目録未収)は、外題打ち付け書きで、上巻「長嘯」、中巻「長流」、下巻「契沖」とあり、それぞれに内題に

三家和歌集上 長嘯(下河辺長流撰)(上巻)

三家和歌集中 長流(五十五歳自集于時/延宝九年五月廿日)(中巻)

三家和歌集下 契沖(四十三(ママ)歳自集于時/延寶九年四月十八日)(下巻)

とあり、『契沖全集 和歌』の解説に、「殿村家本は戦災で焼かれ、その他に三家和歌集の善本が見られない」とされている。本写本も、たしかにあきらかな誤写や数首の歌の出入りがみとめられるが、旧契沖全集所収の殿村本と比べても、これを補う面もあり、比較的善本のように思われる(これについては、稿をあらためて紹介しなければならない)。

一方で、今回紹介するように軸物としても多くの事例が『契沖全集 第十六巻』の「和歌拾遺」に収められている。なかには、『漫吟集類題』にみられない歌もあり、これらを含めて契沖の和歌は語られる必要があろう。本稿では、本学蔵の二軸を紹介するとともに、『契沖全集』に収められている軸類との関係についても考えてみたい。

1, 契沖蓮歌歌稿 N8C2*911.15*1 資料ID 211555177

① 図書館書誌情報 (原本を調査した結果をふまえて、若干、補正を加えた)

[契沖和歌稿] / 契沖 [著]

1 軸 : 103.0×43.2cm

箱書 : 契沖阿闍梨蓮の和歌十首草稿

本紙の大きさ : 16.8×32.6cm

付属物 : 書付「契沖阿闍梨の真跡なる蓮十題の歌にちなみて / 池水のすむも濁るもよそにしてさくやはちすのこゝろなるらむ / かくよめるもの圓珠庵のあるし藤むら叡運なり / 大正六年の春しるすになむ / ㊦ [僧正叡運] [心忒]」1 包

「契沖阿闍梨は……」(明治二十一年) 1 枚

「木の間より……」「このまより……」(本軸の翻字) 各 1 枚

② 内容 : 『漫吟集類題』第 5 夏歌下 蓮 1937-1945, 1878

③ 翻刻 : 拙稿「関西大学蔵契沖関係書あれこれ」(関西大学アジア文化研究センターディスカッションペーパー Vol.10, 2015.3)

今回、誤りを訂正し表記を工夫して、さらに右に漫吟集類題の本文を添えた。また、本軸の歌との異同を漫吟集類題の本文に太字で示した。

本紙一枚 (楮紙素紙) 16.8×32.5

このまより簾うこかし吹風に
池のはちすも香を送りつゝ
世の中は何かおもへは塵ならぬ
蓮さへやと心にそとふ
白妙に池の蓮のさくをみよ
わかこゝろにも此花やなき
塵のよを思ひわひては池のへに
はちすをみてそ風にまよへる
風ふけは、すのうき葉にまるふ玉
ひとつなからそあまたなりける
はちす葉のひとつみとりに
白たへの花にくれなる
ましりてそさく
草の庵をむへも玉とはなつけにし
なみそ
むなしとやみむはちす葉の露

漫吟集類題

木の間より簾動かし吹風に
池の蓮も香をおくりつゝ (1937)
世の中は何かおもへは塵ならぬ
蓮さへやと心にそ問ふ (1938)
白妙に池の蓮の咲を見よ
わか心にも此花やなき (1939)
塵の世の思ひわひては池のへに
蓮を見てそ風にきよむる (1940)
風吹ははすの浮葉にまるふ玉
ひとつなからそあまた也ける (1941)
蓮葉のひとつ緑に
白妙の花に紅ましりてそさく (1942)
草の庵をむへも珠とはなつけにし
むれしとなみそ蓮葉の露 (1943)

のいとにもとまらぬは
玉にぬく草葉もあるを

蓮葉は 玉にぬく草の糸にもとまらぬは

をは露と る
露とおけ ともゆらく白玉

露をは露とおける蓮葉 (1944)

玉のうてなに立出て

蓮葉の玉の臺に立出て

蓮葉の露をは

心たかくも咲る花かな (1945)

心たかくもさける花かな

糸はあれと玉にもぬかて蓮葉は

いとはあれと玉にもぬかて蓮葉は

ゆふるる露を風にまかせぬ (1878)

ゆふるる露を風にまかせぬ

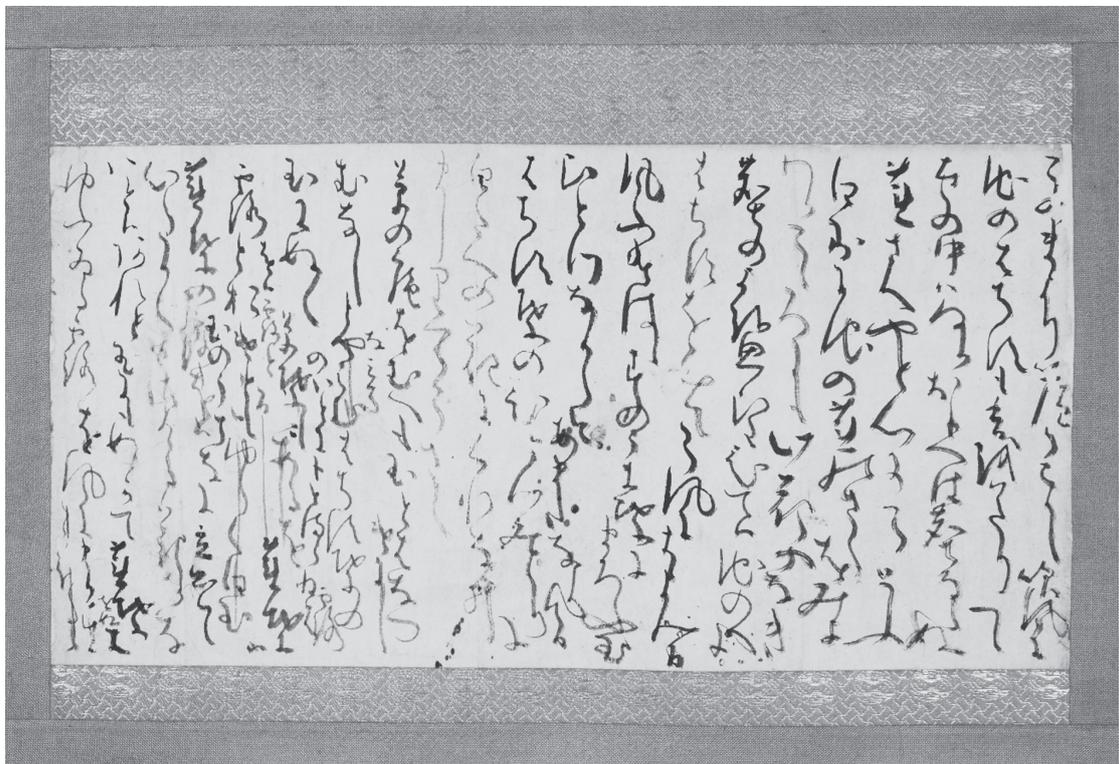
□(せか)む

そ付けたる

※『漫吟集類題』の「蓮」の部の一部と合致する。配列は十首目のみ異なる。訂正のあり方から草稿のように見える。ただし、図版でもわかるように、八首目のもとの歌は「玉にぬく草葉もあるを蓮葉は露とおけともゆらく白玉」とよめるが、行が揺れており、一首を書いた後で推敲を加えたとみるには、やや不自然なところがある。本紙の左の端にはいくつか墨痕がみとめられ、さらに歌が続いていたものを切断したものと思われる。

ここにおさめられた歌うたは『漫吟集類題』にしかみえず、その点で本軸との異同は貴重である。また、推敲により訂正されたあとのかたちが『漫吟集類題』とほぼ一致している点や配列も最終歌を除いて一致している点も、『漫吟集類題』との関係から注意される。

四首目 (1940) の結句、「まよへる」は「き (支) よむ (ん) る」とよめなくはないが、「塵の世



1, 契沖蓮歌歌稿

を」は明らかに「を（越）」である。ことばのつづきも「を」がよい。

これと同様の蓮の歌の歌稿の断簡が天理図書館に蔵されている（契沖全集第十六巻：541-542 翻刻：816 写真：818 解説）。本紙は本軸とよく似た素紙であるが、法量が14.8×36.0と大きく異なり、ツレとは考えられない。しかし、訂正の仕方はほぼ同様であり、また、「蓮の歌」の草稿かとも思われる点ではなんらかの関係が考えられる。天理図書館蔵本は、全十三首、七首目と八首目の間に「池水は浅き物からいつみなる」という上の句だけのものがある。1首目から8首目までは、『漫吟集類題』の1924～1930に相当し、本学の軸と同様『漫吟集類題』との関係が考えられる。九首目と十二首目は「蓮の歌」ではなく、『漫吟集類題』では「郭公（ほととぎす）」の部に入る1450と1532の歌。これを除く四首は『漫吟集類題』の1931～1934に相当するが配列が異なる（八～十三首目は、1450、1931、1933、1934、1532、1932の順）。同じ目的でよまれた歌の草稿が大きさの異なる紙に、その場その場でものされたものか、あるいは草稿そのものではなく、それをもう一度そのままに書き写したものかとも考えられ、詳細は不明である。

2, 立春七首 N8C2*911.15*2 資料ID 212156624

① 図書館書誌情報（原本を調査した結果をふまえて、若干、補正を加えた）

立春七首 / 契沖 [書]

1軸；103.8×52.1cm

箱書（表）：契沖阿闍梨立春歳暮和歌横軸，箱書（裏）：明治十八年乙酉春日鑑之題函□ / 米僊田寔（久保田米僊か？だとすると、田寔は「久保田寛」のことか）

本紙の大きさ：25.7×42.7cm（薄墨紙部分）

薄葉の薄墨紙を厚手の鳥の子紙の上に押したもの

附属物：極札1枚「契沖阿闍梨 梅かえに / おしなへて ㊦ [(不明)] (表)、「立春歳暮歌十首 名アリ / 甲申秋 ㊦ [思無邪 (上方・朱)] [昔斎 (下方・墨)] (裏)

書付、「契沖歌十首」(本軸の翻字) 1包

② 翻刻

翻刻にあたっては、()に『漫吟集類題』の歌番号を、その後に○数字で、国会図書館蔵「円珠庵契沖詠草」の歌順を示した。また、右に漫吟集類題の本文との異同を示した（なお、二首目「ひと、せを」の歌の第四句「けふは八雲に」を『契沖全集』の翻刻は「けふりは雲に」とするが、デジタルデータを参観するに、国会軸も「けふは八雲に」となっており、本軸、『漫吟集類題』とともに異同はないことになる。

立春七首 契沖

梅かえに春やこもりて鶯の

花のくしけもけふに明らむ (46) ①

ひと、せをやまとことはたとふれは

けふは八雲にたてる春かな (48) ②

からにしきやまと哥にもたち出よ

けふは春とそ山もかすめる (69) ③

山もかすめる一峰もかすめる (漫)

門松のまつとしきかは今とてや
きのふのとしのけふ帰らん (40) ⑤

天の戸を年かくれぬと吹とちし
かせのちからや春にあくらむ ⑥

朝なさなめつらしからぬ天の戸も
いつかはあけし年と春とに (36) ④

いにしへのなにはの春や立かへる
けふりそかすむ民のかまとに (27) ⑦

歳暮三首

おしなへて山の木ことにふる雪の
たかきいやしきくる、年かな (3469)

我はた、ゆくにまかせて送りでん
人そかへりて年をせむなる (3475)

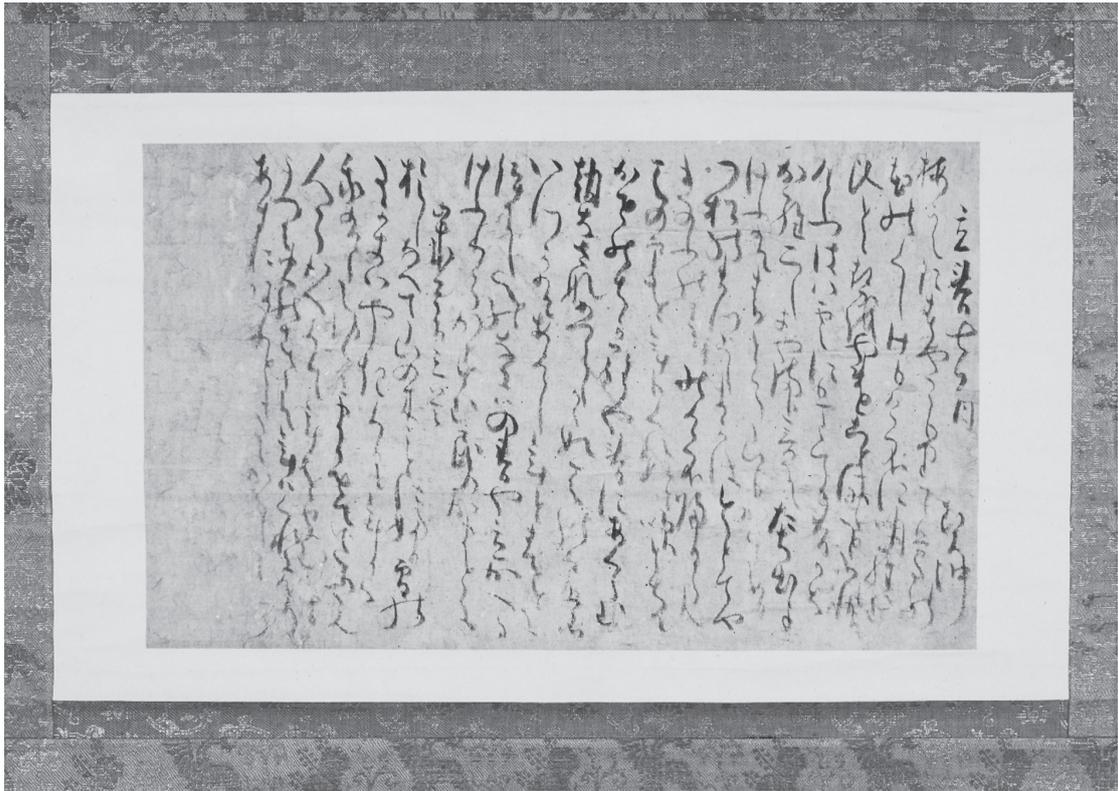
うつみ火の春にて年はくれにけり
あすにあふともた、かくしこそ (3476) ⑭ (巻軸)

※本軸に関しては、『契沖全集十六』所収の、国会図書館蔵「円珠庵契沖詠草」(翻刻：537～538頁、解説：816～817頁)との関係を考える必要がある。国会図書館蔵の軸は国会図書館ライブラリーで閲覧可能。この軸には、立春の歌七首をはじめ、立春鶯(二首)、初春の歌(一首)、海辺霞(一首)、若菜(三首)、春の歌の中に(一首)、鶯(四首)、柳(二首)、梅(二首)と春の歌二十三首と歳暮(一首)、伊勢家集(一首)が書かれている。このうち立春七首と歳暮一首とが、本軸と一致する。しかも、漫吟集類題に収載されていない五首目(国会軸では六首目)の「天の戸を年かくれぬと吹とちしかせのちからや春にあくらむ」の歌を共有する点でも、国会軸と本軸との関係は否定できない。

「立春七首」は、すべて同じ歌であるが、国会軸とは順番が異なる。つまり、国会軸の四首目にあたる「あさなさな」の歌が、関大軸では六首目に位置する。これによって、それぞれの歌のつながりは、関大軸の方がよくなっている。つまり、二首目と三首目は「やまところば」と「やまとうた」とが類似の語を含み、三首目と四首目は、一首目からだか「けふ」を共有し、四首目と五首目は、百人一首歌を本歌とすることで共通する。五首目と六首目は「天の戸」を共有して、最終の歌につながっている。

「歳暮」三首は、国会軸には三首目だけをのせる。『漫吟集類題』の出現順になっており、二首目と三首目は連続している。これによって、本軸が直接国会軸のようなものをもとにしたのでないことはうかがわれる。これらの歌うたは『漫吟集類題』以外には見えず、その点でも、両者の関係はもう少し考える必要があるが、現在の資料では、想像の域を出るものとはならない。

『契沖全集』解説では、「天の戸を」の歌が歌集類に見出されないこと、春の歌を集めたものなのに、末に「歳暮」の歌(本軸末尾の「うつみ火の」の歌)のあるのが不審であることの指摘がなされているが、本軸のように、立春歌と歳暮歌とを首尾に置いた十首歌の形態の軸を考えれば、納得できる面がある。



2. 立春七首

これからの展望として

この二軸に共通して言えることは、契沖の歌がさまざまな形式で、歌集とは異なる形で伝承されることが多くあり、2の「立春七首」のように、歌題の下に「契沖」の署名のあるようなものが、複数みられ、先に紹介した本学図書館蔵の「萬葉集最極秘和詞灌頂新點」も、和歌ではないが署名をもつ。署名のあることの意味はいくつか考えられようが、国会図書館軸の『契沖全集』解説が「自署していることから想像すると、何びとかに書き与えたものであろう」というように、そのために、それだけを書いて、人に与えたものとするのが自然であろう。だとすると、同じようなものが、いくつか作られたことになるが、国会図書館の方は、歌数も多く長大なものであるが、内容からすると、末尾の二首が孤立しており統一感がない。したがって、特別なものとして他人に与えたというものではなさそうである。しかし、前後の余白は整っており、書としてはまとまりのあるものとなっている。逆に本学のものは、立春と歳暮で首尾一貫しているが、書き出し前の余白が狭く、末尾に余白が大きくあり、人に与えたものだとすると、全体が整わない感じがする。

1の「蓮歌歌稿」にしても、ひとつの作品としては扱い難いのであるが、草稿としては訂正のある部分のありようは、やや不自然の感がある。非常に近接した歌をおさめる天理軸との関係も気になるところである。何回かおこなわれた、蓮歌の歌稿と推敲のあとがまとまって軸装されて何人かに分け与えられるということがあったのかもしれない。

本学には、以前に紹介したように（先掲「関西大学蔵契沖関係書あれこれ」（関西大学アジア文化研究センターディスカッションペーパー Vol.10、2015.3））、歌軸のほか軸物として「萬葉集最極

秘和譚灌頂新點」(N8C2 911.124 2) と、「背面先生説」(N8C2 811.56 501) の二軸を収蔵する。このような契沖の和歌軸をはじめとする断片的な資料は、それぞれを個別ものもとして扱うべきことはもとより重要であるが、全体として扱うことも不可欠な要素として注意せられることになろう。そのような視点をこれからの研究課題として提起しながら、新収の歌軸二軸の紹介とする。

付記

図版の掲載にあたり、関西大学図書館のご許可をえた。本図版は、KU-ORCASの研究の一環として撮影されたものであり、本稿はその成果の一部である。また、本稿は科学研究費補助金基盤研究(B)(代表：田中大士)および基盤研究(C)(代表：佐野宏)の研究成果の一部でもある。

(いぬい よしひこ 関西大学文学部教授)

高松塚古墳 VR 体験コンテンツの開発

奥村 茜 寺田 楽 林 武文

1. はじめに

かつて美術館は、デジタルデータ化された資料を保管・分析することを重視しており、展示物として、その価値を後世に伝えていくことが主な役割であった。しかし近年では資料をコンテンツ化することで利用者に体験、学習、交流を提供する場所、すなわち利用者を重視した公共空間へと変化することが求められるようになってきた。特に VR に関して、コンテンツ開発のためのプラットフォームが整えられてきたことにより、VR を利用して文化財の体験、学習あるいは観光や地域振興に向けたコンテンツを美術館の展示に向けて開発している研究が多く見られるようになった^{[1][2]}。

VR を用いた文化財体験コンテンツの先行研究として、唐招提寺の VR 展示^[3]、蒔絵万年筆の VR 鑑賞システム^[4]があげられる。唐招提寺の VR 展示の例では、唐招提寺を 3DCG で再現し、コントローラを自分で操作しながら唐招提寺の境内を見学するウォークスルーコンテンツである。仏像を拝むだけでなく、屋根の上まで上がることが可能であり、寺院建築の構造を細部まで観察することができるようになっている。

蒔絵万年筆の例では、万年筆の表面のデザインに既存のアーカイブを使用することで、効率的に万年筆の再現を行っている。HMD（ヘッドマウントディスプレイ）を装着することで立体的に見ることができ、またズーム機能を付けることで万年筆の劣化を気にすることなく、小さい展示資料である万年筆を、肉眼では見えにくいような細かい模様まで見る事が可能となっている。万年筆の形に類似した Wii リモコンをデバイスとして使用しているため、直感的に操作・鑑賞することができる。

このように VR は、普段一般的に見学が許可されていない貴重な文化財や、劣化が進む恐れがあり、博物館などでの展示に適していない作品を実際に体験・見学することが可能となる。しかし VR コンテンツを美術館で運用するには、展示用のスペースを確保しなければならないほか、設置・運用のためにコストがかかる。また VR 体験時には機材の使用法や展示物の説明をするナビゲーターとしてスタッフが必要となり、人件費もかかる。これらの理由から、実際に VR 展示を採用している美術館は少ない。したがって、今後美術館での VR 展示が普及していくためには、展示するにあたって、設置・運用コスト以上のメリットがあること、また人件費を削減するために無人の状態でも VR 展示を利用できるシステムを作ること、以上 2 点が必要条件となる。

関西大学アジア・オープン・リサーチセンター（KU-ORCAS）^[5]では、古代から近代における日本とアジアの歴史研究の成果のデータベースの構築とオープン化を進めている。本研究では、その研究の一環として進めている、高松塚古墳をコンテンツの対象に取り上げ、展示を通して VR の有効な活用方法を探った。

奈良県高市郡明日香村にある高松塚古墳は、7世紀に建造された古墳で、直径23m（下段）及び18m（上段）、高さ5mの二段式の円墳である^[6]。石室内部には東に青龍、西に白虎、南に朱雀、北に玄武、そして東西それぞれに男子群像や女子群像が描かれている。また石室内の天井には中国流の二十八宿全てが順序正しく描かれていたと推定される。埋葬されていた人物については諸説ある。1972年に高松塚古墳の発掘調査が、故網干善教名誉教授（当時助教授）の指揮のもと関西大学考古学研究室の学生が参加して行われた^[7]。発見直後、考古学史上最大の発見として高松塚古墳は注目を集め、1973年に特別史跡に指定され、翌年には壁画が国宝に指定された。古墳建造当時は極彩色でそれぞれの壁画が描かれていたと考えられるが、発掘時には雨水の浸入やカビの発生などにより壁画の退色・変色が顕著に表れていた。また朱雀が描かれていた場所は鎌倉時代頃に盗掘に遭い、その後の流入した土砂により壁の漆喰ごと剥がされたことでその姿が見えなくなっている。

コンテンツの媒体としてVRを用いることで、新たな体験を通じた理解・興味関心を生むことができる可能性がある。そこで、発掘当時の資料と考古学研究成果に基づき、高松塚古墳の石室を再現し、自由に探索できるVRコンテンツを開発した。

コンテンツは、学内のオープンキャンパスおよび大阪市内の商業施設での常設展示に用いることとし、展示形態に合わせて2種類のシステムを開発した。すなわち、一方は、体験者が古墳を見学している間、横で解説者がコントローラで操作を行いながら解説をするタイプ、もう一方は、体験者がHMDを装着すると、字幕と音声自動的に流れるため、無人の状態でも見学できるタイプである。コンテンツ体験後に行ったアンケート調査の結果を元にコンテンツの有効性を検証したのち、2種類の展示形態に対し、効果的な展示方法について考察した。

また2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンキャンパスでのコンテンツ展示が困難となったため、Webやスマートフォン上で高松塚古墳のVR体験ができるコンテンツを開発した。このコンテンツは、プリレンダリングした全天球パノラマ画像とスマートフォンの姿勢センサを用いて古墳内部を360度見渡すことができるものであり、2021年3月よりKU-ORCASのWebサイトで配信を開始した^[8]。

2. コンテンツの制作

2.1 コンテンツの概要

本研究では、HMDを用いて、高松塚古墳の内部を観察するVRコンテンツを制作した。発掘当時の高松塚古墳の石室内部と壁画を3DCGで再現すると同時に、考古学的な検証に基づいて再現された、建造当初の壁画も表示可能とした。ヘッドトラッキングとインタラクションにより、石室内部にいるかのような体験ができる機能や、実際に石棺の中に横たわる遺体の視点で古墳内部を観覧する機能、建造当時と発掘当時を切り替えて鑑賞できる機能を付与した。

VRコンテンツにする目的は高松塚古墳についての興味と感心を喚起するためである。また建造当初の壁画を表示可能としたのは、関西大学が有する資料を活用し、古墳のさらなる理解を深めるためである。

2.2 石室の3Dモデリング

2.2.1 開発環境

石室形状のモデリングには、Autodesk社の3dsMax2017を、レンダリングとインタラクションの

付与にはUnity2018.1.5f1を使用した。壁画の作成にはテクスチャマッピングとディスプレイメントマッピングを使用した。ただし、高松塚古墳が盗掘時に掘られた穴（盗掘口）の箇所については新たにモデルを作成した。

石室の寸法や材質に関するデータと壁画の画像は、関西大学博物館より提供を受けた（図1）^[9]。床の面は画像が無いため、天井の一部の画像を基に、マッピング画像をAdobe Photoshopで制作した（図2）。

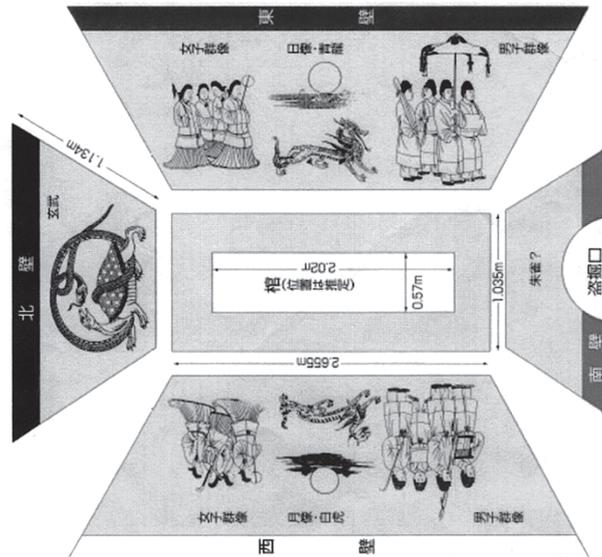


図1 壁画の展開図と寸法（関西大学博物館^[9]より提供）



図2 石室と盗掘口のモデリング

2.2.2 壁画の画像データ

今回使用した壁画のテクスチャは、発掘時に撮影された写真を使用している（図3）。石室の壁画は、カビの浸食が進んだため、2007年に石室を解体して取り出し、修復作業が進められた。2020年3月に作業が終了し、古墳外の展示施設にて公開が開始されたが、石室内の壁画としてそのものを観察することはできなくなっている。

建造当初の色彩を再現した画像として、関西大学の研究者らによって時代考証に基づいて色彩を

復元した画像^[10]を使用し（図4）、コントローラのボタンを押すことにより、発掘当時と建造当時で古墳内部の状態を切り替えて比較することができるようになっている。



図3 発掘当時の玄武

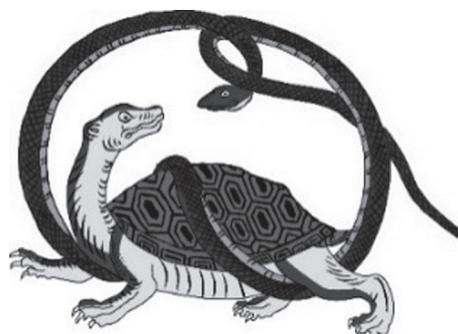


図4 建造当時の玄武（復元画像）^[10]

2.3 質感設定

本コンテンツでは、VRを用いたインタラクティブな表示を行うため、質感設定は、ゲームエンジンUnity上で行った。古墳の発掘当時の写真から、石室内部のリアリティを再現するために、ディスプレイメントマッピングを併用した。発掘当時の画像を基にしたグレースケースのマッピング画像を作成し、UnityのAssetにインポートした。影となる部分は元の画像から窪みや汚れを判断して編集した。

また、関西大学博物館の制作による陶板による石室のレプリカ^[10]の凹凸や質感も参考にした。

建造当初の復元画像に関してもVRで表示するためにUnityのAssetにインポートしている。色鮮やかな玄武（図4）などが描かれている画像を使用し、発掘当時と建造当時で古墳内部の状態を比較して比較することができるようになっている（図8、9）。建造当時は白色のしっくい塗の壁に極彩色の壁画が描かれていた。当時の壁の平滑度については知ることが不可能であるため、発掘時の画像を基に窪みや汚れを判断して凹凸を設定した。光源は、局所的に空間を照らす点光源のみとした。また、光源の色は、当時の発掘者の記録を参考にして、青白いものとした。

2.4 音声・字幕の実装

当コンテンツを、解説者が居ない場合でも体験ができるように、音声説明機能、字幕機能を実装した（後述するBタイプのコンテンツで使用）。音声・字幕の作成にはUnityのTimeline機能を使用した。Timelineは、時間経過とともに変化するアニメーションを作成できる機能である。

解説文は、考古学専門家の監修を受けて作成し、ボイスレコーダーで録音した音声ファイルをMP3に変換し、Unityに取り込んだ。字幕は、Timeline内で音声のタイミングに合わせて一行ずつ文章を表示することで実装した（図5）。

音声と字幕の再生はコンテンツの紹介が終了した後、自由に閲覧する時間として約20秒間静音状態になり、また最初から再生されるというループ状態になるようにした。テキストUIは字幕が終了するまで位置が固定されるため、閲覧するすべての壁画に文字が重ならないように配慮した結果、下寄りの位置に配置することになった。



図5 字幕が表示されている様子

2.5 システムの動作

コンテンツ視聴用のHMDはOculus Riftを使用した。また体験者に見えている映像が、そのまま外部の大型モニターに反映されるように設定し、体験者以外も視聴できるようにした(図10)。

また今回は、解説者がXboxコントローラを用いて操作しながら、体験者の横で解説を行うタイプと、HMDを装着すると、自動的に解説の音声と字幕が流れるタイプの2種類のコンテンツを作成した。以後、前者をAタイプ、後者をBタイプと呼ぶことにする。それぞれのコンテンツの処理の流れを図6、図7に示す。

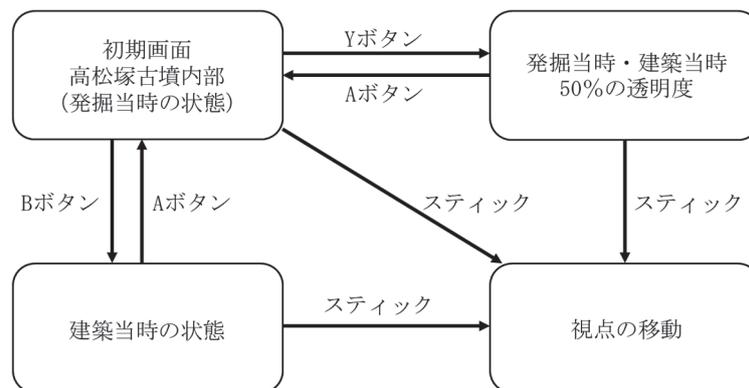


図6 Aタイプの状態遷移図

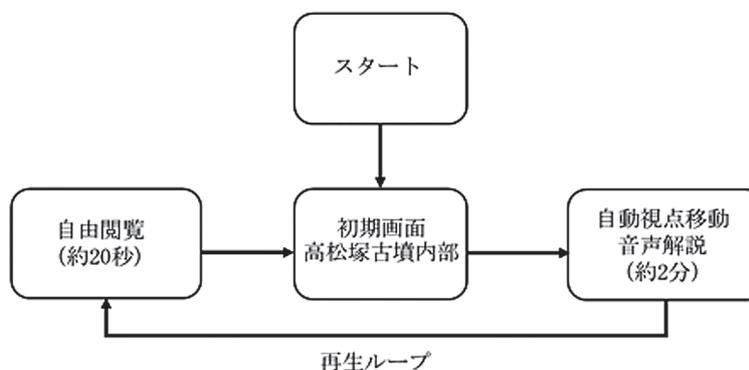


図7 Bタイプの状態遷移図

Aタイプでは、建造当時と発掘当時の2つの姿をコントローラのボタンで切り替えることで比較して観覧できる。タイトル画面から古墳内部にシーン遷移をした時は暗転からフェードインをして、映像がHMDとディスプレイの両方に映る。最初は発掘当時のCGが映し出されるが、XboxコントローラのBボタンを押すと、建造当時の再現図に切り替わり、観覧することができる（図8、図9）。

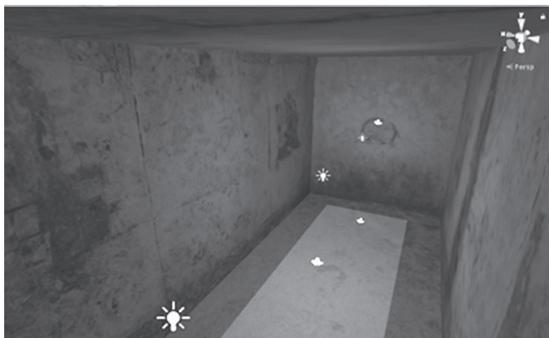


図8 発掘当時の石室内部



図9 建造当初の石室内部

東西南北の四方には四神が描かれており、東の壁に青龍、西の壁に白虎、南の壁に朱雀、北の壁に玄武を眺めることができる。また、女子群像、男子群像、月像と日像もはっきりと見ることができる。Yボタンを押すと、建造当時の姿と発掘当時の姿がそれぞれ50%の透明度になる。つまり壁画が建造当時と発掘当時で重なって映し出されるため、直感的に違いを確認することができる。Aボタンを押すと、発掘当時の姿を再度観覧することができる。埋葬されていた遺体の視点からも、高松塚古墳を閲覧することができ、天井には星縮図が描かれている。床には、どのあたりに遺体が横たわっていたのかが白い透明の板でマークがされている。

Bタイプでは、ボタンによる図の切り替えはできないようにされている。「玄武→青龍→日像→男子群像→朱雀→白虎→女子群像→星縮図」の順番で音声による解説が行われる。一つの説明が終わるごとに方向転換の指示音声流れ、これに合わせて時計回りに閲覧者が動くことですべて閲覧することが可能になる。閲覧中、大半は発掘当時と建造当初の壁画がそれぞれ50%の透明度で重なった状態で映し出されるが、朱雀の解説時のみ、盗掘口の部分を比較するために、自動的に建造当時の姿に切り替わる。朱雀の説明が終了すると、元の状態に戻り、次の解説に移る。また、すべての解説が終了すると、自由に閲覧するために20秒間無音状態になり、経過後、再度初めから音声解説が流れる。移動については、Aタイプのみ可能であり、Xboxコントローラのスティック操作による。

3. コンテンツの公開と評価

3.1 コンテンツの公開

Aタイプのコンテンツは、2018年3月～2019年12月の間に、関西大学千里山キャンパスで開催されたオープンキャンパスや学内外の行事において、大阪、名古屋、広島で展示された。高松塚古墳の解説は、関西大学文学部考古学研究室の学生が行った（図10）。Bタイプは2019年3月5日から5月19日の間、グランフロント大阪ナレッジキャピタル The Lab 2階の展示スペース（図11）と、2019

年8月24日に関西大学総合情報学部で開催されたオープンキャンパスにて展示を行った。それぞれの展示において、コンテンツ体験者にアンケートを実施し、その結果に基づいてコンテンツの評価を行った。なお、Aタイプに関しては、2019年3月23日、2019年8月3日・4日にそれぞれ関西大学千里山キャンパスで開催されたオープンキャンパスにて実施したアンケートの結果を評価に用いている。



図10 オープンキャンパスでの展示 (Aタイプ)



図11 ナレッジキャピタルThe Labでの展示 (Bタイプ)

3.2 アンケート調査

来場者がコンテンツの体験後に回答したアンケートをもとにA、B両タイプの有効性に関して評価を行った。アンケートの項目は、年齢・性別に加えて以下のQ1～Q7の通りである。

- Q1：高松塚古墳についてご存じでしたか
- Q2：高松塚古墳は関西大学が発掘したことはご存じでしたか
- Q3：いままでにVR体験をしたことがありましたか
- Q4：コンテンツは見やすかったですか
- Q5：VR体験を通して当遺産に興味をもちましたか
- Q6：コンテンツの内容はわかりやすかったですか
- Q7：自由記述

Q1からQ3に関しては「はい」か「いいえ」のいずれかを回答し、Q4からQ6に関しては5段階(1：悪い～5：良い)で回答した。ここでは、コンテンツの効果について検討するために、特にQ4～Q6に注目して分析を行った。

3.3 結果および考察

Aタイプでは10代から60代の計133名が、またBタイプでは10代から70代の計202名がコンテンツを体験した。今回は両者の比較において年齢層と人数を合わせるために高校生の年代を解析の対象とした。その人数は、Aタイプは90名、Bタイプは67名であったことから、Aタイプについてはランダムで67名を抽出した。

以下の3項目について検証を行った。

- 検証①：AタイプとBタイプでは、どちらの方がより体験者の興味を促すのか
- 検証②：高松塚古墳の知識の有無によってコンテンツの満足度に差は出るのか
- 検証③：VR経験の有無によってコンテンツの満足度に差は出るのか

3.3.1 検証①について

質問項目 Q4～Q6 について、A タイプと B タイプそれぞれの評価点の平均値と標準偏差を求め両者を比較した。結果のグラフを図12に示す。各質問項目における評価点の平均値の差の有意性について t 検定を行ったところ、Q4 ($t = 0.00050$, $p < 0.05$)、Q5 ($t = 4.0 \times 10^{-13}$, $p < 0.05$)、Q6 ($t = 0.039$, $p < 0.05$) であり、どの項目においても有意水準 5 % で有意な差がみられた。これらの結果から、高校生の場合、A タイプの方がよりコンテンツがわかりやすく、体験者の興味を促すことがわかった。

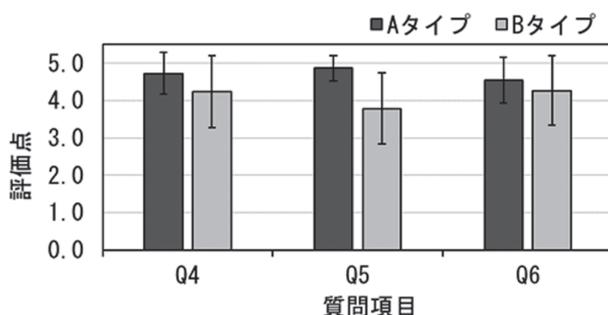


図12 タイプ別の Q4 から Q6 の平均評価点

3.3.2 検証②について

それぞれのタイプにおいて、Q1の「はい」と「いいえ」に分け、回答別に評価点の平均値と標準偏差を算出した。結果のグラフを図13、図14に示す。Q1について、Aタイプで「はい」と答えた者は37名、「いいえ」と答えた者は30名であった。Bタイプで「はい」と答えた者は22名、「いいえ」と答えた者は45名であった。よって検証②では、Aタイプで「はい」と答えた者の中からランダムで30名抽出し、Bタイプで「いいえ」と答えた者の中からランダムで22名抽出して分析を行った。回答別に見た各質問項目の評価点の平均値の差の有意性について t 検定を行ったところ、Aタイプの場合、Q4 ($t = 0.35$, $p > 0.05$)、Q5 ($t = 0.46$, $p > 0.05$)、Q6 ($t = 0.54$, $p > 0.05$) であり、どの項目でも有意差が認められなかった。Bタイプの場合、Q4 ($t = 0.044$, $p < 0.05$)、Q5 ($t = 0.0062$, $p < 0.05$)、Q6 ($t = 0.0053$, $p < 0.05$) であり、こちらはすべての項目で有意な差がみられた。これらのことから、高松塚古墳を知らない者が自動音声・字幕のコンテンツを体験すると、高松塚古墳を知る者との理解の差が生まれることが分かった。

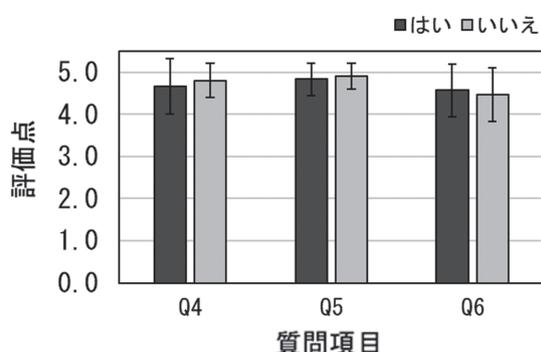


図13 Aタイプの平均評価点
(Q1で「はい」と答えた参加者)

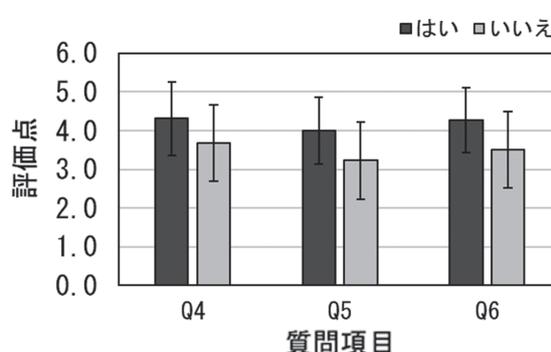


図14 Bタイプの平均評価点
(Q1で「いいえ」と答えた参加者)

3.3.3 検証③について

それぞれのタイプにおいて、Q3の「はい」と「いいえ」に分け、回答別に評価点の平均値と標準偏差を算出した。結果のグラフを図15、図16に示した。Q3について、Aタイプで「はい」と答えた者は25名、「いいえ」と答えた者は42名であった。Bタイプで「はい」と答えた者は24名、「いいえ」と答えた者は43名であった。よって検証③では、Aタイプで「いいえ」と答えた者の中からランダムで25名抽出し、Bタイプで「いいえ」と答えた者の中からランダムで24名抽出して分析を行った。回答別に見た各質問項目の評価点の平均値の差の有意性についてt検定を行ったところ、Aタイプの場合、Q4 ($t = 0.21, p > 0.05$)、Q5 ($t = 0.65, p > 0.05$)、Q6 ($t = 0.33, p > 0.05$)であり、どの項目でも有意差が認められなかった。Bタイプの場合、Q4 ($t = 0.65, p > 0.05$)、Q5 ($t = 0.13, p > 0.05$)、Q6 ($t = 0.87, p > 0.05$)であり、こちらもどの項目でも有意差が認められなかった。これらの結果から、VR経験の有無ではコンテンツの満足度に差が出ないことがわかった。

しかし、この分析結果に関しては、VR経験の度合いは個人差があるため、はい・いいえの回答ではなく5段階の回答に変更して細かく調べる必要がある。

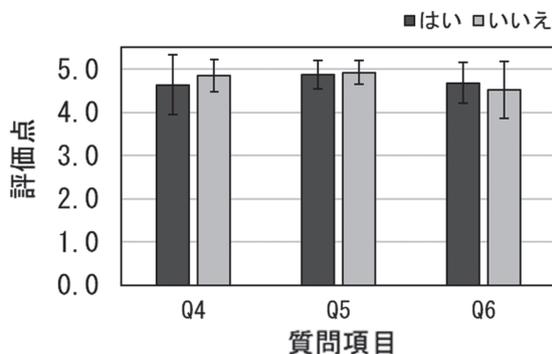


図15 Aタイプの平均評価点
(Q3で「はい」と答えた参加者)

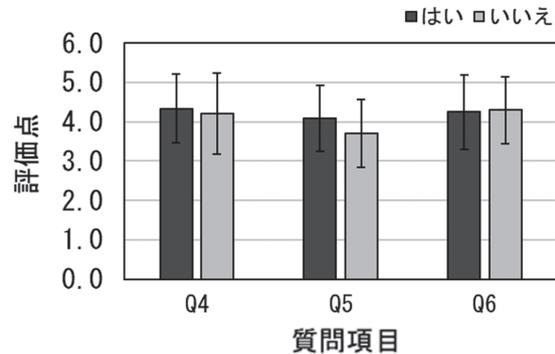


図16 Bタイプの平均評価点
(Q3で「いいえ」と答えた参加者)

3.4 自由記述・コメントによる評価

Aタイプについては、アンケートの自由記述欄にて受けたコメントとして、「VRで古墳の中身を見るという貴重な経験ができてとてもよかった。」「壁それぞれは写真などで見たことがあったが、VRだと同時に上下左右が見えるので、どういう意図を持った配置なのかとかリアルな感覚で分かりやすかった。」など、肯定的なコメントが多く見られた。

Bタイプについては、Aタイプと同様にアンケートの自由記述欄からのコメントを受けた他に、展示期間中に常駐した説明員（コミュニケーター）を通して来場者により評価コメントを95件受けた。特徴的なコメントとして、「解説がついているのでわかりやすかった」、「本当の古墳の中にいるみたい」、「VRは初めてだったが、臨場感がすごく感じられてびっくりした」というものがあった。こちらも全体を通して肯定的な意見が多かったが、「体験中に向きを変えるため、コードが絡まりやすかった」、「視点が高いため、浮いているような感覚になる」、「説明文が読みにくい、見づらい」といった、改善・要望に関する意見も見られた。

4. Web 版 VR コンテンツの制作

4.1 コンテンツの概要

新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンキャンパス等でのHMDを用いたコンテンツ展示が中止になったため、研究を進めることが困難であると判断した。よって高松塚古墳を、HMDを持っていなくてもスマートフォンやパソコンのウェブサイト上で閲覧できるWebベースのコンテンツを新たに開発した。コンテンツの開発には、A-frame^[11]を用いた。A-frameは、HTMLとJavaScriptでWebVRを作成できるフレームワークである。バージョンは、AndroidとiOSの両方に対応している1.0.4を使用した。

スマートフォンで観察する場合は、画面中央に視線と一緒に動くカーソルが配置されている(図17、18)。カーソルをアイコンに一定時間重ねるとマウスクリックとなる。パソコンで観察する場合はカーソルの配置が無く、マウスでの操作となる。右下にあるVRアイコンをタップすると、ステレオ表示(VRモード)に切り替わり、ハコスコやGoogle Cardboardなど両眼立体視用のビューアによる鑑賞が可能になる(図18)。



図17 スマートフォンで見た場合のタイトル画面



図18 ステレオ表示 (VRモード)

4.2 コンテンツの開発

3dsMax2017を用いて作成した高松塚古墳の古墳内部に、中心、前方、後方にそれぞれカメラを配置し、パノラマ画像を書き出した(図19)。A-frameでは背景オブジェクト<a-sky>にパノラマ画像を読み込ませて表示するため、1枚のパノラマ画像で直接ズームアップすることが難しい。したがって、カメラの位置を変えて書き出した画像(図20)を別のページに用意し、アイコンの操作によってページをリンクさせることでズーム機能を実装した。すなわち、床面の矢印のアイコン(図

21) を選択すると図19と図20が入れ替わることにより、前進移動によるズームが可能となる。

シーン中のカーソルは場所がすぐにわかるような色合いにしたが、その他のアイコンは壁画の閲覧に支障が出ないように、壁画になじむ色合いにした。解説文は、Adobe Photoshopで画像に文字を張り付ける形式で作成し、JPEG ファイルとして挿入した。音声は、ボイスレコーダーで録音したファイルをMP3に変換し、音声のアイコンに埋め込むことで実装した。カーソルによるクリック動作や、ページ遷移の動作は、JavaScriptで制御している。

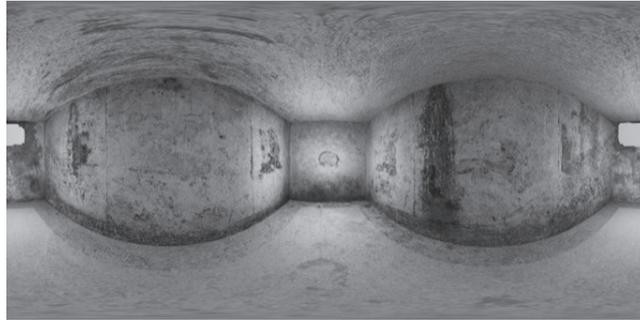


図19 古墳石室の全天球画像（中心カメラ）

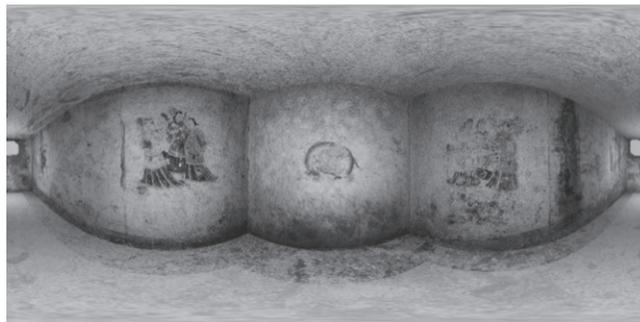


図20 古墳石室の全天球画像（前方カメラ）

4.3 コンテンツの操作方法

操作の流れは、まずタイトル画面（図17）から始まる。「操作方法」をクリックすると、それぞれのアイコンをクリックしたときの動作の説明が表示される。次に、「高松塚古墳とは」をクリックすると、高松塚古墳の簡単な解説を読むことができる。「発掘当時へ」をクリックすると、古墳が発掘された当時の状態を閲覧できる。「建造当時へ」をクリックすると、古墳が建造された当時の状態を閲覧できる。どちらも切り替えアイコンをクリックすると、発掘当時と建造当時を切り替えることが可能である。また、矢印のアイコンをクリックすると矢印の方向にズームする。本のアイコンをクリックすると、壁画の解説と音声のアイコンが表示される。音声のアイコンをクリックすると、解説が読み上げられる。家のアイコンをクリックすると、初めのタイトル画面に戻る。壁画の解説と音声は、発掘当時の状態では壁画の判断が難しいため、わかりやすくするために建造当時のみ実装した。

本コンテンツは、2021年3月より KU-ORCAS の Web サイト^[8] で公開されている。

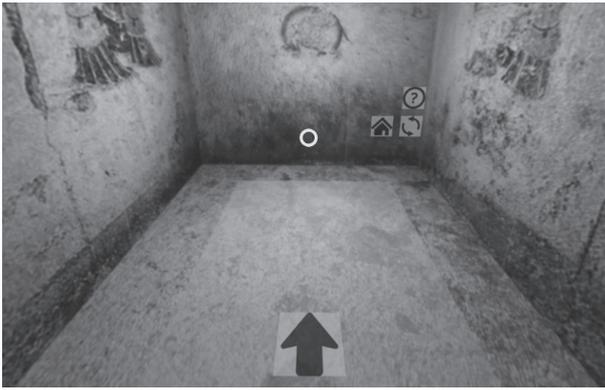


図21 石室内に配置されたアイコンと視線カーソル



図22 文字解説の表示と音声再生アイコン

5. まとめ

本研究では、高松塚古墳に関する情報発信を目的にVRにより石室内部を体験するVRコンテンツを開発し、アンケート調査によりその有効性を検証した。コンテンツの展示とアンケートの結果、VRを利用することにより、来場者の高松塚古墳への興味を喚起し、理解を深めるのに有効であることが分かった。

今回の検証では、高校生に関して、Aタイプの方がより高松塚古墳について興味関心を高めることがわかった。また、高松塚古墳の知識の有無で分けて分析した結果、Bタイプでは知識を持つ者の方がより理解できることが分かった。このような結果になった原因として、Aタイプでは横に解説者がいることで疑問点等があればその場で臨機応変に対応できるが、Bタイプでは無人でおかつ解説は字幕の内容のみであり、疑問点があった場合も未解決になることが考えられる。Bタイプの課題は2点ある。1つは、今回作成した字幕は終始位置が固定だったことから、一部見づらいつころがあったため、閲覧する壁画によって字幕位置が変更されるようにすることである。もう1つは、解説の内容を見直すことである。今後、Bタイプの評価をAタイプに近づけるように、字幕の位置を修正する、古墳内部の広さをよりリアルにする、などシステム全体を見直すと共に、高松塚古墳で疑問に思われやすい箇所を調査し、解説内容を修正することを検討する。

Web版VRコンテンツの今後の課題は、スマートフォンでの閲覧時に、VRモードのままページリンクができるようにすることである。現段階では、ハコスコなどを用いてVRモードで見た場合、ズームアイコンや切り替えアイコンをクリックすると、初期の状態に戻る。そのため、ページが切り替わったと同時に自動でVRモードに切り替わるようにする、あるいは同じページ上ですべてのクリックイベントを発生させるようにする、などといった改善が必要である。

謝辞

本研究は、2019年度（令和元年度）文部科学省私立大学研究ブランディング事業「オープン・プラットフォームが開く関大の東アジア文化研究」として研究費を受け、その成果を公表するものである。高松塚古墳壁画の画像データの提供と貴重なご意見を賜った関西大学文学部 米田文孝教授、発掘当時の資料や復元画像の提供とコンテンツの指針を示して下さった関西大学博物館 山口卓也学芸員、コンテンツ開発と外部への公表においてご支援を賜った関西大学アジア・オープン・リサーチセンター（KU-ORCAS）の関係者各位に感謝の意を表する。

参考文献

- [1] 内閣府知的財産戦略推進事務局：我が国におけるデジタルアーカイブ推進の方向性（2017）
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_kyougikai/houkokusho.pdf>（アクセス日：2021-03-29）
- [2] 国土交通省 観光庁 観光資源課：最先端 ICT（VR/AR 等）を活用した観光コンテンツ活用に向けたナレッジ集，国土交通省（2019） <<https://www.mlit.go.jp/common/001279556.pdf>>（アクセス日：2021-03-29）
- [3] 三枝 太：文化遺産展示への VR 展示応用 2—唐招提寺展における VR 展示—，日本バーチャルリアリティ学会誌第10巻3号，pp40-42（2005）
- [4] 曾我麻佐子・鈴木卓治：蒔絵万年筆の VR 鑑賞システムの開発と博物館における運用，じんもんこん2018論文集，pp.315-320（2018）
- [5] 関西大学アジア・オープン・リサーチセンター（KU-ORCAS）：Web サイト（2017-）
<<http://www.ku-orcas.kansai-u.ac.jp/>>（アクセス日：2021年2月3日）
- [6] 国営飛鳥歴史公園：高松塚古墳 <<https://www.asuka-park.go.jp/area/takamatsuzuka/tumulus/>>（アクセス日：2021年2月3日）
- [7] 森岡秀人，網干善教：高松塚古墳 明日香人の華麗な世界を映す壁画（大塚初重監修 日本の古代遺跡を掘る6），読売新聞社（1995）
- [8] 関西大学アジア・オープン・リサーチセンター：高松塚古墳 VR <<https://www.iiif.ku-orcas.kansai-u.ac.jp/takamatsuduka/about>>（アクセス日：2021年3月30日）
- [9] 関西大学博物館：ホームページ <<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/>>（アクセス日：2020年2月3日）
- [10] 関西大学博物館：高松塚古墳壁画再現展示室，関西大学博物館パンフレット（2008）
<<https://www.kansai-u.ac.jp/Museum/kohun/index.html>>（アクセス日：2020年2月3日）
- [11] Supermedium: A-FRAME, A web framework for building 3D/AR/VR experiences
<<https://aframe.io/>>（アクセス日：2021年2月3日）

（おくむら あかね 関西大学総合情報学部）
（てらだ がく 株式会社電通テック）
（はやし たけふみ 関西大学総合情報学部教授）

コロナ禍における大阪の生活者と生活協同組合 ～大阪いずみ市民生活協同組合を中心に

杉 本 貴 志

- 1 コロナ禍における消費と生活
- 2 大阪いずみ市民生活協同組合
- 3 大阪いずみ市民生活協と緊急事態
- 4 コロナ禍が地域に立脚する生協に問いかけるもの

1 コロナ禍における消費と生活

COVID-19、いわゆる新型コロナ・ウイルスは、2019年末に中国の湖北省武漢市において初の感染例が発見されたといわれる。その後またたく間に同市から周囲へと蔓延したこのウイルスは、2020年に全世界を揺るがすこととなる。人類はこの年、生活と社会のあり方を第2次世界大戦以来というべき規模で激変させるパンデミックに襲われるのである。欧米の先進国を中心に、ロックダウンと呼ばれる都市の全面封鎖も講じられた。外出や移動は、感染を拡大させる原因とされてきびしく制限され、高度に発達した消費社会はその機能の大部分を一時停止した。自由な流通と消費が政府や自治体の権限で（あるいは人々の“自粛”によって）制限されるという生まれて初めての経験に、東西各国の都市生活者は戸惑い、混乱したのである。

それはもちろん一時的な緊急避難として行われた所作であるけれども、しかし仮に今後このコロナ禍が一定の収束を示したとしても、その後の社会のあり方や人々の生活様式が“コロナ前”と全く変わらぬものに戻るだろうと予想する人は少ない。“コロナ後”の社会は、さまざまな面で、それ以前とは相当異なった様相を見せることになるだろう。そういう意味でも、コロナは世界大戦にも匹敵する世界史的大事件なのである。

本稿は、そうした“コロナ後”の社会と生活の新しいあり方を展望するための予備作業、基礎作業として、大阪の地においてコロナを経験した生活者と、彼らがつくる事業組織の経験を現時点で振り返ろうというものである。考察の中心とするのは、堺市に本部を置き、大阪の南部地区で活躍する生協「大阪いずみ市民生活協同組合」。地域の全世帯の4割を組織する同生協のコロナ問題への対応を見ることで、“コロナ1年目”の大阪において、生活者自身が結成した組織である生活協同組合がさまざまな困難を乗り越え、いかにして生活の糧を地域の人々に届けようとしていたのか、そこから得られた成果と教訓は何かを、明らかにしたい。それは世界史的大事件を経験した、地域の一事業体とその構成員の記録であると同時に、流通と消費を中心とした人々の生活の新たなあり

方を考えるための第一歩ともなるものであろう¹⁾。

2 大阪いずみ市民生活協同組合

(1) 概要

本稿の主たる考察対象である大阪いずみ市民生活協同組合は、1974年に設立され、現在では組合員数（55万世帯）や年間総事業高（約1000億円）等でランクすると、日本全国でおよそ600ある生協の中でも6番目程度に位置づけられる、大阪そして日本を代表する生協のひとつである。

日本の生活協同組合は、県境を越えた事業活動が禁じられる等、世界に類がない法制上の厳しい規制下で活動を余儀なくされてきた²⁾から、生協間の統合が進められた現在でも、大部分の生協は都道府県単位で組織されている。しかし大阪府においては、全国でも特異な区域割りが現在に至るまで続いており、北部、中部、南部に事業区域を限った4つの有力生協が並立するという独特の構造となっている³⁾。いずみ市民生協はこのうちの府南部を基盤とする生協であり、大阪市や北摂地域はいずみの事業区域に含まれていない⁴⁾。それにもかかわらず全国6位にランクされるということは、大阪の南部においていかにこの生協が地域に深く根を張り、組織率を高めてきたかを如実に表しているといえるだろう。本部のある堺市において、いずみ市民生協は世帯組織率36.9%、泉佐野市にいたっては60.1%となっている。

政治の都である京都、東京に対して、大阪は「商都」と呼ばれる。そして堺は、伝統的に「商人の町」と称されてきた。しかし実はなにわ大阪の地では、商人だけではなく、消費者自らが消費生活協同組合という形で“商い”を担い、コロナ禍の生活を支えているのである⁵⁾。

(2) 店舗事業と移動販売車

いまや地域の一大事業体に成長したいずみ市民生協は、電気やガスといったエネルギーの供給や高齢者福祉サービス、葬祭や補聴器の提供など、生活のあらゆる部面で地域住民の生活をサポートしているが、消費生活協同組合として事業の中核となるのは、いうまでもなく安心・安全な「食」を組合員の食卓に届けることである。他の大規模生協と同じく、いずみ市民生協の購買事業は2つの業態に分けられる。

1) 本稿は、このような問題意識をもって大阪府堺市における緊急事態下の消費と流通のあり方を考えようという、関西大学と堺市との連携プログラム「緊急事態下にある市民や買い物困難者への生活物資の供給と消費のあり方を考える」による2020年度の成果の一部である。文中にある大阪いずみ市民生協に関するデータは、同生協が発行する総代会・総代懇談会等の資料や、同生協の総合マネジメント室のご教示によるものである。

2) 「組合は、都道府県の区域を越えて、これを設立することができない。」（消費生活協同組合法第5条）

3) 南部を基盤とするいずみ市民生協の他、中部の「生活協同組合おおさかパルコープ」、北部の「大阪よどがわ市民生協」と「生活協同組合コープこうべ」（2011年に大阪北生協と合併）が大阪の4大生協であり、その他の比較的小規模で特色ある生協とあわせて計10の地域生協が大阪府で活動している。

4) 活動エリアは、大阪市を除く東大阪市以南（東大阪市、八尾市、藤井寺市、柏原市、松原市、羽曳野市、富田林市、大阪狭山市、河内長野市、堺市、高石市、泉大津市、和泉市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、太子町、河南町、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、千早赤阪村）となっている。

5) この地域の食品小売流通において、いずみ市民生協はスーパーマーケット業者万代と並んで、市場占有率においてトップクラスに位置すると推測される。地域トップの店舗網を擁する万代は、大阪・兵庫・奈良・京都・三重に展開する155店舗の売上高が3583億円に達する（2020年2月）が、そのうち大阪南部には56店舗が存在する。一方、いずみ市民生協の2020年度の総事業高は1042億円強、うち店舗事業が238億円強、宅配事業が667億円と見込まれている。

ひとつは、店舗を構えて売り場で安心・安全な食を提供する「店舗事業」であり、もうひとつは、組合員がカタログを見て注文用紙やオンラインで注文した品物を配送車で、店舗を経ずに直接届ける「無店舗事業」である。

一般的に言って日本の生活協同組合は店舗事業が不得意であって、店舗部門は慢性的に赤字で、無店舗事業などその他の部門の黒字でそれを埋めるといった収支構造がよく見られる。そこには、上述のように県域に事業活動を制限するのみならず、出資金を払い込んで組合員となった人間にしか事業の利用を許さないという、世界でも稀に見る日本の生協法の過酷な規制が影響している。日本の生協は、他の小売業者のように店舗に幅広く客を呼び込んだり、広域に多店舗展開してチェーンストア経営をしたりすることができないのである。いずみ市民生協も、課された規制と条件は同様であり、他のほとんどの生協と同じく、現在に至るまで無店舗事業を主力業態としてきた歴史がある。

しかし近年、いずみ市民生協の店舗展開は全国の生協から注目されている。効率が悪く赤字体質の小型店を閉鎖して大型店に注力するという方向性は他の大手生協と変わらないものの⁶⁾、そうして新しくできたスーパーマーケット型店舗の設備や運営がきわめて優れているのである。そこには、店舗運営をまるごとグループ会社（株式会社コンシェルジュ）に委託するという全国の生協でも独特のやり方、九州地区のスーパーマーケット業者の売り場づくりのテクニックをそっくり真似て取り入れるといった貪欲ともいえる姿勢等々、視察に訪れた他の生協もなかなか真似できないような諸要素が反映されているように思われる。いずみ市民生協が近年新たに開店した店舗は、他のスーパーマーケット業者との競合においてしばしば圧倒的な優位を獲得している。生協店舗の近くに位置するライバル店が生協にはとても勝てないと撤退するのみならず、いずみの新規出店予定地の近隣でこれまで営業していたスーパーが生協の進出を聞いてそれに先立って閉店を決めるといった、他生協、他地区では考えられないような事態まで生じているのである。

このような地元の消費者からの強い支持を背景に、いずみ市民生協は旧式の赤字小型店舗のスクラップと新型SSMタイプの店舗（標準売り場を600坪以上に設定）のビルドを重ね、2019年度には年間供給高20億円を超える6店舗を中心に、全10店舗で直接剰余の黒字を記録、店舗事業の利用者はのべ1060万人、供給高合計は228億円を超えている。

また、近年深刻化する買い物弱者・買い物難民対策として、生協の店舗から移動販売車を買取物困難地域に派遣する移動販売車事業も、着実に台数と利用者を増やしている。

いずみ市民生協の移動販売車「コープのお買い物便」は、買い物困難地域の消費者が必要とするもの（およそ800品目の商品）をトラックの荷台を改造した“売り場”に並べ、何カ所かの“停留所”をまわって地域の消費者に買い物をしてもらおうというもので、2012年度に河内長野市などを対象にして始まった。その後、地元の自治体や自治会などの要望を聞きながら順次拡大した結果、コロナ問題が勃発する前の2019年度には、堺市の堺区、中区、南区のほか、羽曳野市、富田林市、

6) 事業の利用者でもある組合員が主権者となっていて「1人1票」制で組織の意思決定が下される協同組合においては、株主と利用者が分離されている「1株1票」制の株式会社と比べて、たとえ赤字であっても事業を中止することが困難であり、いかに組合員の総意を得るのが課題である。いずみ市民生協では、「2年連続で店舗直接剰余が赤字の店舗」や「経常剰余で累積赤字が総投資額を上回った店舗」などを閉店対象として理事会で検討するという閉店基準を組合員の総代会で合意し、この基準に沿って店舗のスクラップ・アンド・ビルドを進めている。かつて生協では赤字店舗の整理は容易なことではなかったが、現在では多くの生協で同様の方針が立てられ、店舗の再編・大型化（あるいは店舗事業からの撤退）が進んでいる。



図1 大阪いずみ市民生協の移動販売車（筆者撮影）

千早赤阪村など14の市町村を4台の移動販売車が周回するまでに発展している。

いまや買い物困難者は中山間地域のみならず都市部でも高齢者を中心に増加しており、この問題に関しては国の省庁や自治体においても生協への期待が大きい。そこで全国の多くの生協が移動販売車事業に取り組んでいるが、その多くは1日の売り上げが採算分岐点となる10万円に届かず、地元自治体の補助金を得て何とか収支を保っているという状況である。しかし、いずみ市民生協では、この移動販売車事業も直接剰余は黒字であり、赤字を出すことなく地域貢献に成功している。移動販売車の運転手として、店長経験を持つような生協の退職者を再雇用して迎え入れ、販売品の選定や陳列などを経験豊かな再雇用者に任せるなどの工夫をすることで、地域のニーズに的確に応える小さな売り場づくりに成功し、補助金に頼らずとも買い物困難地域での食品・必需品の定期的な供給ができていること、そして人件費の節約をしながら退職後のシニアの生きがいづくりとして地域貢献の仕事を作り出し、提供していることは注目に値しよう。

(3) 無店舗事業と夕食宅配

他生協の多くとは異なり、いずみ市民生協は店舗事業においても好調な数字を残しているが、それでも購買事業において主力といえるのは無店舗での宅配事業である。いずみ市民生協の総事業高のうち6割以上を占めるのが宅配事業であって、“生協といえば宅配”というのは大阪南部においても変わらない。

日本の生協が宅配事業を本格的に展開したのは1970年代からである。それまで生協組織の基礎単位として組織されていた組合員が集まる「班」を、無店舗事業における配送拠点として活用することを大阪の千里山生協などが着想する。そうすれば、店舗がなくても組合員に効率的に食品を供給できるだろうと目論まれたのである。

こうして、組合員が生協に注文した品物を生協が週に1度配送車で運び、組合員数名が集まる班に届ける、という定期的な無店舗供給事業が確立した。この方式であれば、荷下ろしの後の各家庭

の注文品の仕分けを班に集まった組合員自身がおこなうことで、生協側の配送の手間が数分の一に激減する。消費者宅に一軒一軒配送しなければならないという無店舗事業の最大の問題点を、生協は組合員の班を活用することで克服することが出来たのである。その後まもなく、いずみ市民生協など全国の生協がこれに続々と飛びつき、流通業界で実質唯一、生協だけが大規模な日用品・食品宅配システムを全国に展開することに成功した。それ以来、「班別共同購入」は日本の生協の代名詞となっている。

このように、インターネットが普及する遙か前から無店舗で購買事業を展開し得たのは数ある小売り流通業の中でも組合員組織である生協だけであり、生協は「安心・安全」を旗印に多くの消費者を獲得し、驚異的ともいえる成長を1980年代まで遂げている。しかし、班別共同購入は各家庭に専業主婦が在宅しているということを前提にしたビジネスモデルであった。それはつまり、在宅者がいなければ、班員が集まる事が出来ず、生協から届く品物を受け取り、仕分けすることが出来ないということである。80年代から90年代にかけて女性の社会進出が進み、専業主婦という存在が少数派となっていくとともに、班別共同購入には陰りが見え始める。プライバシーがますます重視されるようになったこともあいまって、班での仕分け作業が敬遠されるようになり、さらには班に所属することもむずかしいという消費者が増えていく。そこから、組合員個人、それぞれの自宅に生協が直接届ける「個別配送」、略して「個配」が共同購入に代わる新たな業態として開発される。

個配は、配送の手間が班配の数倍かかってしまう業態であるが、首都圏コープ事業連合の「パルシステム」において、配送業務を外部の企業にそっくり委託することでこれをコスト的に成り立たせることに成功、この方式が全国的に普及する。全国の生協において、いまや個配こそが共同購入に代わって主力業態となっているのである。

いずみ市民生協においても、現在は宅配利用者の4分の3（20万人以上）が個配利用者であり、班で商品を受け取っている（グループ配送）組合員は4分の1（およそ6万7000人）に過ぎない。とくに新規加入者はほとんどが個配の利用を選択しており、他の生協と同じく、生協が単なる配送業者ではなく「協同」組合であることをこうした個配利用者、新規加入者に実感してもらえような取り組みがもとめられている。

生協の新たな成長の柱ともなった個配と、生協らしさが一目瞭然で、古くからの組合員からいまでも支持されているグループ配送を合わせて、いずみ市民生協の宅配事業の事業高は2019年度578.6億円で、総事業高の6割以上を占めているが、そこに含まれない無店舗での供給事業として「夕食宅配事業」がある。

この夕食宅配は、生協界では山口県の生協から始まった。高齢者世帯を中心として夕食の準備もままならぬ組合員が大勢存在することに対して、コープやまぐちが大手居酒屋チェーンに依頼して夕食弁当を製造してもらい、それを組合員宅に毎日配送することを発案、2007年度に実現したのが生協の夕食宅配である。

いずみ市民生協も2009年に外部の弁当業者に委託した夕食の宅配を開始し、当初は生協としてクリアすべき衛生・安全の水準を確保することに苦勞をすることもあったが、管理栄養士がメニューを決め、商品検査センターが安全性を検査するという体制で、やわらか食、介護食、健康管理食などのバラエティを広げ、利用のしやすさについても改善を図った結果、2019年度には1日平均8757食を供給するまでに成長している。

スーパーマーケットの惣菜売り場やコンビニエンスストアの弁当コーナーと違って、生協による夕食弁当の宅配は第三者の視界にはなかなか入ってこないものであるが、実は大阪南部では毎日1

万人近くの消費者が生協の提供する夕食を取っているという事実は、これまた注目に値するものであろう。

(4) コミュニティの持続的発展への関与

1995年、世界中の協同組合が結集する世界最大の民間組織「国際協同組合同盟」(ICA)は「協同組合のアイデンティティに関する声明」を決議、このなかであらゆる協同組合が基準とし、追求すべき7つの「協同組合原則」が制定された。そのうちの第7の原則が「コミュニティへの関与」であり、協同組合は組合員に奉仕するのみならず、コミュニティの持続的な発展に対しても関心を持たなければならないと宣言されたのである。以来、以前にも増して生協、農協、漁協、信用組合など各種協同組合は、自らが存立する基盤であるコミュニティへに貢献する社会的責任を重視した事業と経営に努めている。

これは、現在世界的に展開されているいわゆるSDGsの動きに20年も先立つものであり、2012年を「国際協同組合同年」とすることが国連総会で決議され、協同組合という思想と実践がユネスコの「無形文化遺産」に2016年に登録されるなど、国際社会はこうした協同組合の先駆的取り組みを高く評価している。

いずみ市民生協においても、コープお買い物便の展開によって買い物弱者問題に取り組むなど、主力とする購買事業そのものが地域に根ざした事業活動であり、地域貢献につながっていることは上述の通りであるが、ここではそのほかの地域社会への関与の例を、事業活動のみならず組合員活動も視野に入れて、いくつか取り上げよう。

生活協同組合は組合員組織である。したがって、生協の大規模化によって事業活動に携わる専従職員と、その事業を利用するとともに主権者として運営を管理する組合員とが分離した現在においても、生協には組合員自身が活動する領域が存在する。これが「組合員活動」であり、事業と組合員活動は生協というクルマの両輪であるといった言い方がしばしばなされる。

いずみ市民生協においても、福祉・平和・環境という伝統的に生協の組合員活動を代表する3領域においてさまざまな活動が続いているほか、生活困窮者の問題や子育てに苦勞する家庭への支援といった、近年とくに顕著となってきた問題への取り組みが展開されている。たとえばフードバンクと連携した「フードドライブ」活動や、行政と連携した「子育て支援」活動は、生協における事業活動と一体となった組合員活動である。ともすれば上述の「クルマの両輪」論が“事業を担うのは職員、活動を担うのは組合員”といった機械的な分離を招きかねないのに対して、職員と組合員、事業と活動とが、相互に影響し合い、絡み合いながら展開するという、協同組合ならではの事業・活動へと発展する可能性をもった取り組みだと評価できよう。

また、コミュニティの維持・発展にとって、何よりも基礎となり不可欠なのは、まともに働ける労働の場を創出することであるが、こうした職の提供という点でも、いずみ市民生協は注目されている。

社会の中で最も雇用の場を得ることがむずかしいのは障害者であり、国は民間企業に対しても、従業員を45.5人以上抱える場合、そのうちの2.2%以上を障害者としなければならないと定めている⁷⁾。しかしコスト競争に忙殺される企業の多くは、この法定雇用率を達成できていないのが現状で

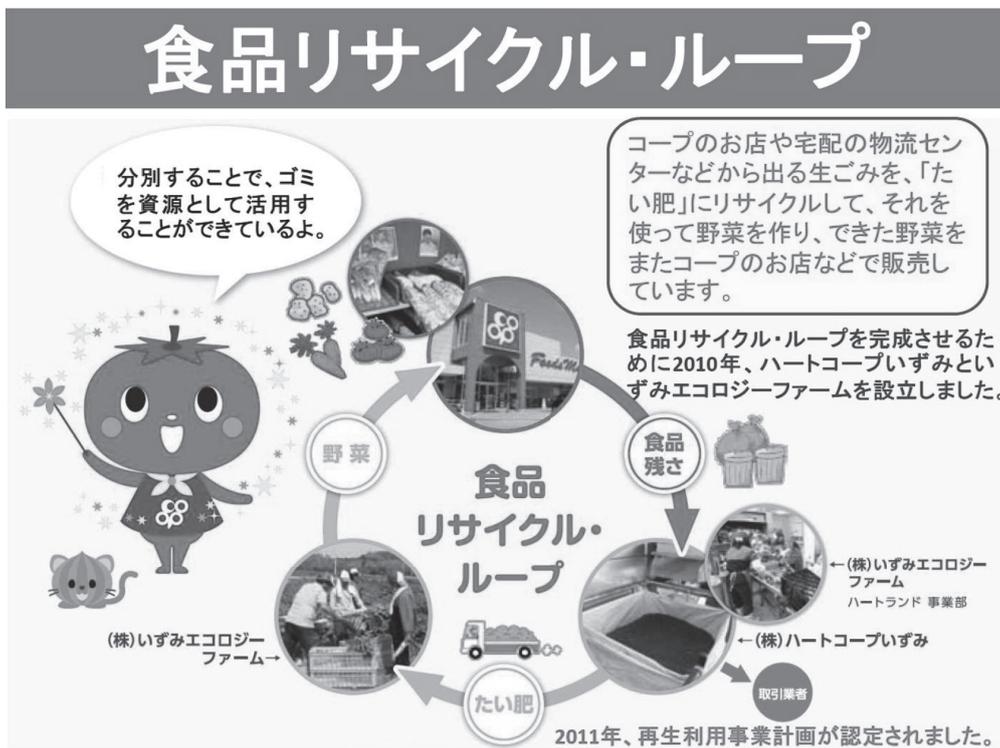
7) 2021年2月まで、障害者の法定雇用率は民間企業が2.2%、国や地方公共団体が2.5%、都道府県等の教育委員会が2.4%であり、民間企業は従業員45.5人以上の企業が対象とされていたが、3月からは雇用率がそれぞれ0.1

あり、障害者が地域できちんと働ける場を見つけることはきわめて困難だという状況がある。

そのようななかで、いずみ市民生協とそのグループ企業は、障害者雇用率において実に6.6%という高い数字を記録している。非営利組織である生活協同組合は、一般にその性格上、営利企業に比べて障害者雇用に対して積極的であり、法定雇用率を達成することはもちろん、それ以上の障害者雇用を進めることで地元自治体からの表彰を受けている生協も多い。しかし、そのような生協の中においても、いずみ市民生協の障害者雇用率はきわめて高い水準にある。

いずみ市民生協が法定雇用率の3倍もの雇用者を雇用できているのは、食品リサイクル・ループという環境問題への先進的な取り組み（図2）を行う中で、2010年に(株)ハートコープいずみという100%出資のグループ企業を設立し、これを「特例子会社」として42人の障害者を雇用していること、そして同じくグループ企業として(株)いずみエコロジーファームを設立し、ここを「就労継続支援A型事業所」として18人の障害者が働いていることによっている。

食品を扱う店舗や配送センターにおいて必然的に発生する食品残渣を、ハートコープいずみで働く身体障害者、知的障害者、精神障害者が堆肥化し、その堆肥を用いて、いずみエコロジーファームで働く障害者が野菜を育て、その野菜が生協の店舗や宅配で組合員に販売される。このように、環境問題にも障害者問題にも貢献するリサイクル・ループの仕組みを、いずみ市民生協はつくりあげているのである⁸⁾。



出所：https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/attach/pdf/161227_7-56.pdf

図2 いずみ市民生協グループの食品リサイクル・ループ

⁸⁾ %ずつ引き上げられ、従業員43.5人以上の民間企業も新たに対象となっている。

8) いずみ市民生協が年間に排出する食品などの生ゴミは454トン、そのうちの87.3%が障害者らの労働によって再資源化されている。

3 大阪いずみ市民生協と緊急事態

(1) 緊急事態下の消費生活

新型コロナ・ウイルスの出現が世に知れ渡り始めた2020年初頭、日本国内において、この問題はまず外国からの帰国者の問題、とくにクルーズ船内で蔓延した伝染病にどう対応するかという問題として受け止められた。事実、空港や船舶を除く日本国内で判明した感染者数は、2020年2月2日の厚生労働省発表で累積患者数が16人、無症状の病原体保有者が4人にすぎず、3月2日の発表でも国内のPCR検査陽性者数は累積で224人（うち無症状者18人）にとどまっている。

その後の感染拡大を知る者にとっては、これは取るに足りないとはいわないまでも未だきわめて低い水準の数字であるが、未知のウイルスに恐怖感を抱く人々は、これに敏感に反応した。2月から3月にかけて小規模クラスター発生の報道が相次いだが、その多くが医療関係であったことも、高齢者の不安をかき立てている。

また2月には小売流通の現場においても、パニック的な状況が発生している。中国でのウイルスの流行と絡めて、“輸入が困難となってトイレットペーパーが品薄になる”というデマ情報がソーシャル・メディアを通じて拡散され、ドラッグストアやスーパーなど小売店舗の店頭からトイレットペーパーが一時姿を消したのである。また医療用を含めて使い捨てのフェイスマスクは、急増した需要に生産・輸入が実際に追いつかない状態に陥り、一般の人々には入手がほとんど不可能な状態が長く続いた。

そして2月27日、内閣総理大臣が全国の小中高校と特別支援学校に対して3月2日から一斉休校をするように要請したことで、人々の意識と行動は決定的な影響を受ける。学校をすべて休みにしなければならないほどの事態だと受け取った市民は外出をできるだけ控えるようになり、企業におけるリモート勤務も一気に普及した。

しかし不要不急の消費を控えるとしても、人間は食料を摂らなければ生きていけない。しかも在宅する家族は、休校や勤務形態の変化によってコロナ以前よりも確実に増えているのだから、家で食事を取る「内食」の需要は必然的に拡大する。消費者はできるだけ買い物のための外出を控えようとするのと同時に、食品の購入量を増やそうとしたのである。小売り流通には、そうした消費者の変化に応えることが求められた。

さらに3月24日には東京オリンピック・パラリンピックの開催延期が決定され、3月29日には有名芸能人の志村けん氏がコロナ感染により死去、国民に衝撃を与えた。そんな情勢の中で、4月7日、総理は改正新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、大阪府を含む7つの都府県に緊急事態宣言を発令した。この宣言は当初ゴールデンウィーク明けまでのものだとされていたが、後に対象地域を全国に拡大し、5月末まで期間が延長される。ヨーロッパ諸国における全面的、徹底的、強権的なロックダウンとは異なり、日本の緊急事態宣言は人々と企業に消費行動と営業活動の“自粛”をもとめるものであったが、多くの消費者は粛々とそれを受け入れた。

のちに「第1波」と呼ばれることとなる3月から5月にかけての感染拡大は、6月にはいったん落ち着きを見せる⁹⁾が、やがてその規模を劇的に拡大して、6月下旬から9月上旬には「第2波」、

9) 4月2日に厚生労働省が発表した国内のPCR検査陽性者数は累計2303人で、うち大阪は279人であったが、1

11月からは翌年にかけては「第3波」がやってくる¹⁰⁾。流通業を営むあらゆる事業者が、年間を通じてコロナ騒動に振り回されたのが2020年だった。生活協同組合もその例外ではない。

(2) 緊急事態下の店舗事業

コロナ禍では政府の緊急事態宣言と並んで、地方自治体によって、地域の実情に応じた独自の対策、対処が講じられた。たとえば大阪府の「緊急事態措置」では、「府民に対し、医療機関への通院、食料・医薬品・生活必需品の買い出し、必要な職場への出勤、屋外での運動や散歩など、生活の維持に必要な場合を除き、原則として居宅から外出しないことを要請」している¹¹⁾。

ここにあるように、食料品など生活必需品の買い出しについては、「感染防止策を講じた上で、必要最小限の人数での活動が前提」と条件がつけられてはいるものの、制限がかけられているわけではない。しかし実際には外出の自粛要請によって、食料品店を含めて流通業の店舗の多くが大きな影響を受けている。

いずみ市民生協の場合、それは来店組合員の減少に結びついている。2019年度に比べて2020年度は店舗の来店人数が877万人から850万人へと5.7%落ち込んだのである。しかし来店者1人あたりの利用単価は2431円で前年比113.0%に伸びており、結果として店舗における供給高は228.5億円から238.8億円へと4.3%増加している¹²⁾。これは明らかに、来店頻度が減り、まとめ買いが増えるという、コロナ禍における消費行動の変化を示すものであろう。こうした傾向は、今後もある程度は続くものと予想されるから、それに応じた売り場づくりが生協には求められる。

学校の全面的な休校措置でそれ以前のように仕事に出られなくなった従業員が出たことで、いずみ市民生協の店舗においても、開店時間を10時にする、あるいは閉店時間を20時にするといった営業時間短縮措置が取られたが、こうした緊急事態において営業をどのように続けることが組合員にとって、また社会にとって、望ましいのか、あらためて多方面からの議論・検討が必要であろう。地震や風水害等においても、かつては組合員と地域のために営業を続けることがとにかく大切なのだと言われていたが、大阪北部地震や大型台風の襲来といった経験を経て、組合員と同じく生協のステークホルダーである職員・従業員の生活や安全を守ることの重要性が再認識されている。

また、いずみ市民生協の店舗では来店者用アルコール消毒液の設置（入り口およびトイレ）、レジでの飛沫防止フィルムの設置、対人距離を保つためのレジ待ち位置の目安表示、定期的なアルコール消毒、惣菜・ベーカリー部門での包装販売、イトインコーナー・給茶機・喫煙所の使用禁止といった感染対策を取る一方、社会的配慮が必要な組合員に向けて「お買い物優先時間」を設定した。こうした措置においても、生協が他の流通業をリードする姿を見せることが期待されよう。

ヶ月後の5月1日の発表では、それが国内1万4120人、大阪1641人とおよそ6倍となっている。その後、6月1日の発表では国内1万6679人、大阪1783人と、感染の爆発的拡大が緊急事態宣言下の行動の抑制で一時沈静化したことが示された（厚生労働省「報道発表資料」 <https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/index.html>）。

10) 大阪におけるPCR陽性者数累計は、厚生労働省の7月1日発表で1816人、8月1日4057人、9月1日8544人、10月1日10593人、11月1日12753人、12月1日20273人と推移している（前掲「報道発表資料」）。

11) 大阪府 Web ページ「感染拡大防止に向けた取組み《過去の要請等》」（<http://www.pref.osaka.lg.jp/kikaku/kinkyuzitai-yousei/index.html>）

12) 本稿におけるいずみ市民生協の2020年度の各種数値は、2021年1月以降に同生協が立てた見込み値であり、今後多少の変動・修正があり得る数値である。

(3) 宅配事業への影響

コロナ禍において最も注目された生協の事業は宅配事業である。外出自粛を迫られた消費者は、当然ながら在宅のままで所用を済ますことが出来る手段を模索する。ほとんどの世代がスマートフォンを活用してインターネットにつなぐことがあたりまえとなってきた今日、ネットスーパーやネット通販が急速に拡大しているが、未だ生鮮を含めた食品宅配といえば生協を思い浮かべるといふ消費者が多いだろう。緊急事態宣言下で、全国の生協がこれまで経験したことがないような事態に直面する。既存組合員からの注文が大幅に増加するのみならず、休眠組合員が注文を再開し、組合員となっていなかった消費者からの新規加入申し込みが相次いだのである。それは生協が現在擁している物流システムの限界を超える規模でやってきた。

いずみ市民生協の2020年度の宅配供給高は667億円となる見込みである。コロナによって一気に前年比15%以上の増加を経験することになった(図3)が、これだけの供給を行うことは、商品調達においても、配送センターにおいても、相当な無理があった。一部の商品は数量不足で希望する組合員全員には行き渡らず、注文受付数の制限や抽選制が導入された。基本的な食生活を支える商品を重点的に供給するために、一部の商品の取り扱いを一時的に停止する措置もとられる。物流・配送の職員は、コロナ禍において以前にも増して衛生的な配慮をしつつ、急増した仕事をこなさなければならなかった。

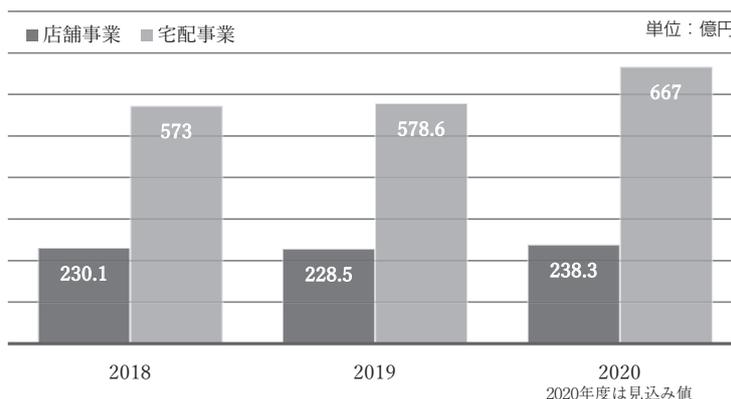
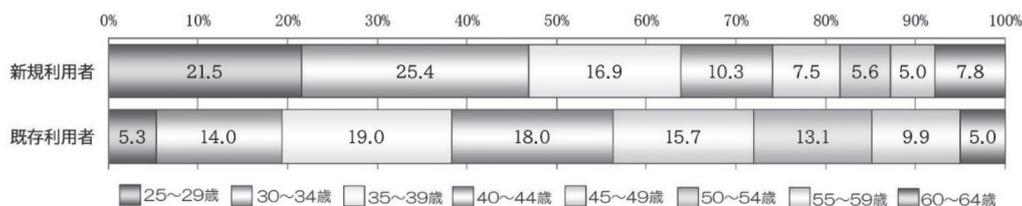


図3 年度供給高の推移

生協総合研究所の「生協・コープの宅配の利用に関するアンケート」調査によれば、宅配事業の急伸は全国の生協に共通してみられる傾向であるが、コロナ禍によって2020年に新たに生協の宅配事業の利用を始めた組合員には、近年の生協組合員の高齢化に反して、若年層が非常に多いという特徴がある。感染拡大前からの既存利用者3090人、感染拡大後からの新規利用者1791人の計4881人から回答を得たこの調査では、既存利用者では20代から30代は4割弱であったが、新規利用者では25~29歳が21.5%、30~34歳が25.4%、35~39歳が16.9%と、20~30代が6割以上を占めているの



出典：中村由香「新型コロナウイルス感染拡大前後の生協利用の変化」『生活協同組合研究』539号、2020年12月。

図4 コロナ禍前後の生協組合員の年齢変化

である。インターネット調査であるから、実際の生協組合員に比べて回答者の年齢層が低めに出る傾向にあることは否定できないが、それでも既存組合員と比較しての新規組合員の若年化は特筆されよう。

こうした数字から想像されるのは、突然の休校・休園、施設の閉鎖や利用制限によって買い物もままならない切実な状態に追い込まれた子育て中の消費者が、無店舗事業を展開する生協の存在にメディアによって気づき、あるいは周囲から薦められ、新たな組合員として生協に大挙飛び込んできたという構図である。そしてこれらの新規利用者の73%が、コロナの感染が収束した後も生協の利用を継続する意向を示しているというのである。

いずみ市民生協の組合員は2020年度に7000人近く増えているが、いずみの宅配利用者においてもこのような傾向が同様にあるとすれば、今後の宅配事業における供給方法やカタログ媒体、提供商品、品揃え等々について、新たな利用者層を視野に入れた見直しが長期的に必要となるだろう¹³⁾。

(4) 社会的弱者とコロナ禍

他の災害と同じく、コロナ禍においても最も過酷にその影響を受けたのは社会的に弱い立場にある人々である。買い物弱者は、通常以上に買い物が出来なくなったし、平常でも雇用の機会になかなか恵まれない境遇にある人々は、真っ先に解雇の対象となった。

そのような状況に対して、いずみ市民生協はさまざまな措置をとることで、何とか彼らの日常生活を維持することを図っている。

上述のように店舗ではお買い物優先時間が設けられたし、密閉空間で感染が危ぶまれる移動販売車についても、事業を中止することなく“3密”を回避する工夫を重ねて継続することで買い物困難地域の買い物を支援した。前年12月から配送車が1台増え、5台体制に強化されたこともあり、2015年に7つの行政区で137カ所をまわっていたコープお買い物便は、2020年度には18行政区の225の停留所を巡回し、毎週1500人に利用されるまでに成長、年度供給高は1億2000万円に達する見込みである。

さらに2021年1月からは、堺市の大野芝店において、買い物送迎サービス「コープのらくらくショッピングカー」を新たに開始。買い物困難地域でなくても歩行が不自由、重いものが持てないといった買い物困難な組合員から好評を博している。

また障害者雇用においても、当然ながら解雇者を出すことなく、逆に、いずみエコロジーファームでは2人、ハートコープいずみでは4人が2020年度に入社している。離職者をできるだけ出さずに、しかも新規雇用者を受け入れることに成功していることは、流通業界に降りかかったコロナによる“特需”だけでは説明できないだろう。それはまさに、協同組合の第7原則がいう「コミュニティの持続的発展への関与」であり、いずみ市民生協の5番目の責任としてあげられる「地域社会の一員として果たす責任」なのである¹⁴⁾。

13) コロナに影響された2020年度のいずみ市民生協の宅配では、主力カタログ媒体『バスケット』掲載品の注文が前年比117%の伸びを示したのに対し、よりこだわりの商品を掲載するカタログ媒体『よりすぐり』からの注文が前年比150%以上という驚異的な伸張を記録している。たとえばこうした傾向についての詳細な分析も今後必要となると思われる。

14) いずみ市民生協はその『CSRレポート』（社会的責任報告書）において、「わたしたちが果たすべき7つの社会的責任」として、「よりよい商品・サービスを提供する責任」「取引先と健全な協力関係を築く責任」「よりよい職場を実現する責任」「地球環境を守る責任」「地域社会の一員として果たす責任」「ルールに基づく運営をすすめる責任」「健全で強い事業経営を築く責任」を掲げている。

非正規の身分にある人々が職を失い、学校給食がなくなり、子ども食堂の運営が困難になったりした緊急事態宣言下の状況は、組合員組織である生協が、外部の組織と連携して、フードドライブのような組合員活動の成果を発揮すべき状況である。いずみ市民生協が2020年6月から9つの店舗でフードドライブの寄付受付を常設化したのは、時宜を得た取り組みである。共同購入センターでも、組合員から返品・回収された商品を子ども食堂に寄付する取り組みを10月から開始している。

とはいえ、コロナの感染対策においては、協同組合の命である“人と人とのつながり”を遮断せざるを得ない場面も多々あり、いずみ市民生協においてもコミュニティを支える組合員活動と事業活動の多くが大幅に制限され、一部では後退を余儀なくされている。

高齢者福祉事業ではデイサービスの利用が敬遠され、直接剰余が大きく落ち込んだ（前年比67.8%）が、施設の閉鎖・利用停止を迫られた子育て支援事業は、さらに大きな打撃を受けている。堺市の4カ所と市外の6カ所で展開されている地域子育て支援拠点事業（つどいの広場事業）は、緊急事態宣言が解除される5月末まで休館とされ、再開後も感染予防のために予約制が導入され、利用人数が制限された結果、1日平均参加家族数が前年の数分の一にまで減少した（表1）。

表1 子育て支援施設参加家族数（2020年度）

| 名称 | 住所 | 1日平均参加家族数 | 前年比 |
|--------------------|-------|-----------|-----------|
| つどいの広場ほんわかルーム | 東大阪市 | 3.6 | 41.1% |
| つどいの広場すまいる | 東大阪市 | 4.7 | 50.6% |
| みんなの子育てひろば八尾南 | 八尾市 | 2.0 | 26.8% |
| つどいの広場ひだまり | 富田林市 | 3.1 | 70.0% |
| つどいの広場ほのほのルーム大矢船 | 河内長野市 | 3.7 | 46.8% |
| 子育てひろば“くみのき” | 大阪狭山市 | 1.5 | 2020年7月開設 |
| みんなの子育てひろば七道 | 堺市堺区 | 2.1 | 32.5% |
| みんなの子育てひろば宮山台 | 堺市南区 | 3.9 | 68.5% |
| みんなの子育てひろば城山台 | 堺市南区 | 4.6 | 49.6% |
| 南区役所子育てひろばみみちゃんルーム | 堺市南区 | 4.6 | 25.2% |
| 合 計 | | 3.4 | 39.3% |

感染拡大阻止を旗印に高齢者や障害者、乳幼児に関する施設を閉鎖したり、利用制限をしたりした場合、それによってきわめて深刻な影響を受ける人々が大勢いる。為政者には、それをきちんと踏まえ、それに対する十分な措置を講じた上で、施策を実行することが求められる。そしてもし、そのような姿勢が見られないのであれば、民間非営利の相互扶助組織が、その任の一部を引き受けざるを得ないであろう。非営利・協同セクターの中心である協同組合には、そのような新たな役割が期待されているのである。

4 コロナ禍が地域に立脚する生協に問いかけるもの

阪神淡路大震災以来、地域生協がコミュニティにおいて顕在的に、また潜在的に果たす役割と能力が再評価され、地域購買生協が地元の自治体と災害時等における協定を締結することがスタンダ

ードとなっている。

いずみ市民生協も、たとえば2012年に本部がある堺市と「災害時における物品の供給協力に関する協定」を結んでいるが、2020年3月には、事故・事件の被害者やその家族・遺族の生活を支援するという、全国でも珍しい連携協定を堺市と締結した。負傷やショック、経済環境の悪化などにより食事の用意などができなくなってしまった家族に、生協が配食や家事代行サービスを最大25日間提供するというものである。

そうした下地があって、2020年5月14日、堺市は新型コロナ・ウイルス感染症の陽性者及び濃厚接触者で市が自宅待機を要請した人間に対して、いずみ市民生協に委託して「自宅療養等応援パック」を配達すると報道発表を行い、新聞・テレビ各社がこれを報じた。対象者の自宅玄関前に、2週間分の食料品18種23品目、日用品5品目、選択品4種14品目（必要者のみ）を詰め合わせた箱が、いずみ市民生協によって配送されるのである¹⁵⁾。

緊急事態は図らずもいまや生協が地域になくはならぬ存在に成長していることを示したといえるだろうが、この事態が生協の抱える課題をあらためて突きつけたことも事実である。

外出の制限・自粛によって生協宅配の利用は爆発的に伸びたけれども、これを機会に小売業のみならず外食産業や卸売業者なども宅配に目を向け、生き残りをかけて消費者の家庭に自店の「食」を届けることに乗り出している。もしかしたら、宅配ブームは今後生協の追い風ではなく試練となるかもしれない。現在の週1回配達、数日から1週間前までに予約注文という生協の宅配方式は、長い年月をかけて開発し、現在のところ最良のやり方として定着しているものであるが、スマートフォンで頼めば数時間後には自宅に届くというネットスーパーや出前サービスを消費者があたりまえのように感じるようになった時、彼らの目に生協の共同購入や個配はどう映るだろうか。そういう彼らに、生協は自らの仕組みの意義をどう説くのか。その準備はできているのか。

生協の夕食宅配事業は、まさにコロナ禍のような事態において真価を発揮するものかといえるだろうが、いずみ市民生協の夕食宅配事業のコロナ禍における利用高の変化を見てみると、予算比101.2%、前年比104.5%と、爆発的に伸びているとまでは言い難い状況である。弁当業者に製造委託し、委託された地域スタッフが自分の乗用車で配達するという夕食宅配のやり方を、注文量の変動や質への要求に対応するために、今後はどう変え、発展させていくべきなのか、検討を始めることも必要ではないか。他県で生協の後から夕食宅配に乗り出した民間業者の中には、地産地消や地域の食文化を尊重し、それにこだわった夕食を届けようという業者も出現している。生協のお株を奪うような例にも学びつつ、大都市大阪の中では農や海の資源に恵まれた立地にある生協として、地域に根差した食の宅配のあり方を探ることももとめられるように思うのである。

店舗事業においても、これまでは国内の生協のなかでも屈指の優れた中～大型スーパーをつくりあげることに見事に成功してきたけれども、この緊急事態は、はたしてそれだけで満足していいのかという問題提起をしている。風水害や伝染病など緊急事態の内容によっては、遠出をしたり、大勢が移動したりすることがためらわれたり困難となることもあり得るだろう。そんなときには、広域を対象とした大型店がひとつあるよりも、小さなコミュニティ毎に購買の拠点が多数あるほうが好ましくなるかもしれない。小型店の多店舗展開は店舗事業の近代化・現代化に逆行することのよ

15) 届けられる食品は、無菌米飯、お粥、お餅、レトルトカレー、レトルト丼、即席スープ、うどん、カップ麺、魚缶詰、肉缶詰、惣菜パック、ふりかけ、果物、水、お茶、野菜ジュース、パン、ビスケットとバラエティに富んであり、それができるのはまずは生協だと判断されたのである。当初はいずみ市民生協が商品の手配から配達まですべてを担っていたが、業務の繁忙もあり、のちには生協は商品の手配のみを担当する形に変わっている。

うにかつては考えられていたが、英国の生協や日本のイオン（まいばすけっと）のように、むしろ未来は小型店にあるという斬新な戦略を今世紀になって採用した例もある。いずみ市民生協も、地域受取ステーションという形で宅配商品の受け取り拠点を増設しようとしているが、注文品の保管・受け取り場所から一歩進んだステーションのあり方を考えることもできるのではないか。

コロナは様々なつながりを断ち切り、大きな傷を社会に与え続けているが、もう一度食のあり方を家族で見つめなおす機会になり、家で調理し、家で食べることを家族全員で楽しむようになったという声もあるという。いまだ続く緊急事態を、組合員だけでなく、生活協同組合の側においても、自分たちのあり方を見直すきっかけにすることができるだろうか。

（すぎもと たかし 関西大学商学部教授）

表紙にちなんで

橋 寺 知 子

なにわ大阪研究センター研究紀要の表紙は、本センターが所蔵する赤松麟作の版画集「大阪三十六景」を用いている。この版画集は1947（昭和22）年に発刊されたものだが、赤松が描いた大阪の情景は、戦前期の最も豊かで活気のあった頃の風景と推測される。ここでは、表紙にちなんで、風景に表れた大阪の近代をふりかえってみたい。

「大阪城」

表紙の絵は、大阪城公園南西部の大手門から大阪城天守閣の方向を望むもので、手前には大手門に至る坂道の両側の松、右手に多聞櫓、左手には千貫櫓、その間に本丸の大阪城天守閣が描かれている。大阪発の朝夕のニュース番組では大阪城のライブ映像が見られ、大阪城は大阪を代表する景観の一つだ。大阪といえば豊臣秀吉、秀吉が築いた大坂城、故に大阪城は大阪の象徴、なのだが、豊臣期の天守（1代目）は1585年に完成したが、1615年大坂夏の陣で焼失した。その後、徳川幕府は大坂城を大きく作りかえ^{注)}、2代目天守は1626年に完成したものの、1665年に落雷で焼失、その後天守の再建はなかった。現在の建物は1931（昭和6）年に完成した3代目で、現在90歳、一番長寿の天守閣である。

1928（昭和3）年、大阪市長關一は昭和天皇即位の御大礼記念事業として、鉄骨鉄筋コンクリート構造での天守閣の復興と大阪城の一部公園化を発表した。1925年に大大阪記念博覧会が開催され、第2会場の大阪城では天守台に仮設された豊公館という展示・展望施設が好評を博し、それをきっかけに天守閣の復興が企画されたという。豊臣期の大坂城の復元設計は容易ではなかった。設計は大阪市土木部建築課の技師たちで、姫路城など現存する城郭建築の実測といった基礎的な研究から始め、「大坂夏の陣図屏風（黒田屏風）」をもとに、様々な文献からの知見を加え、まとめ上げた。単なる復元にとどまらず、永久的な鉄骨鉄筋コンクリート構造で、エレベータも備えた最新の博物館である。近年は本格的な木造で復元を試みる城郭建築が多く、鉄筋コンクリート造の城郭は、何となくニセモノっぽく見られているように感じる。しかし大阪城天守閣は、考証を徹底的に行い、当時の最先端技術で建設に挑戦し、不燃で耐久性のある新しい「近代和風建築」を作ろうとした先

注) 現在、外堀や内堀沿いの美しい石垣やいくつか残存する櫓は徳川期のもので、豊臣期の遺構は、実は地中に埋まっている。発掘によって豊臣期の石垣が発見されたのは1959年のことである。現在、豊臣石垣公開プロジェクトが進められ、寄付を募り、公開展示施設の建設が計画されている。<https://www.toyotomi-ishigaki.com/>



大手前から天守閣を望む



大阪城天守閣



旧第4師団司令部庁舎（ミライザ大阪城）

達たちの遺産であり、1997年に登録有形文化財に登録されている。

大阪城公園にはまとまった緑があり、川や濠の水も豊か、スポーツ施設や文化施設も充実した都市公園だが、ここまで拡大・整備されたのは戦後で、開園時は本丸のみが公園の範囲だった。終戦までは大阪城周辺は陸軍の一大拠点で、天守閣のすぐ南に天守閣と共に市民の寄付で建設された陸軍第4師団司令部庁舎（現・ミライザ大阪城）があり、二の丸にも陸軍施設がびっしり建ち並ぶ、緊張感ある公園だった。現在の公園東半分と大阪ビジネスパークのエリアは大阪砲兵工廠で、1945年の空襲で壊滅的な被害を受けた。近代の大阪は軍都でもあり、大阪城はその中枢であった。

また大阪城は上町台地の北端にあたる。大阪は平たい街だが、西から大阪城へ向かって歩くと、軽く上りになっているのに気づく。本丸の標高は31m程度あり、大阪市中心部で標高30mを超える地点は少なく、貴重な「高地」と言える。天守閣の東隣に水道の配水池がある。緑で覆われ、天守閣から眺めても池には見えないが、これは水道用水を本丸へ一旦揚水し、高さを利用して市中へ配水するもので、明治以来、水道事業に注力してきた大阪の近代遺産でもある。

上町台地には古代の遺跡も多い。大阪城公園の南では、発掘で難波宮跡が明らかにされつつあり、大阪城公園や大阪歴史博物館と連携した整備が計画されている。大阪城周辺には、大阪の古代から近代までの長い歴史が最も分厚く重層している。

（はしてら ともこ 関西大学環境都市工学部准教授）



周辺地図

なにわ大阪研究センター研究プロジェクト

研究プロジェクトについて

関西大学なにわ大阪研究センターがめざす「ネットワークとしての大阪研究の拠点づくり」を支援するために本センターの活動方針の中核ともいえるべき基幹研究部門を設定し研究班を公募しています。これらを足掛かりとして、本センターにおける地域研究と連携の活動が一層重層化されるとともに、今後の継続的な外部資金獲得の基盤が形成されることが期待されています。

基幹研究部門について

1. 本学のルーツを探る関西法律学校・泊園書院部門
2. 永続的な地域研究のハブを宣言する大阪地域研究部門
3. 上方演芸の研究部門
4. 歴史認証とCG技術、社会科学、工学の英知を結集した景観再現・デジタルアーカイブズ部門
5. 大阪の防災・減災と環境部門
6. 上記の研究部門以外で、研究者自らが提案する研究

採択課題一覧

2020年度～2021年度

| | |
|-------|---|
| 研究課題 | SPレコード（松本コレクション）のデータベース作成と分析 |
| 研究代表者 | 米田 文孝 文学部・教授 博物館・館長 |
| 研究概要 | <p>本研究では2つの領域の研究成果から、大正から昭和初期にかけての「松本コレクション（SPレコード）」を通じた大阪の芸能活動について総括する。</p> <p>第1領域 大正から昭和初期における世相・風俗、特に阪神間モダニズムを探究する。</p> <p>第2領域 松本コレクションの詳細なデータベースを構築して体系的に分類し、本学の教育・研究活動等の利用に供する。大正から昭和初期にかけて、関西大学の千里山移転および学生生活を取り巻く社会情勢とSPレコードの関連について探究する。</p> <p>松本コレクションのSPレコードは、主に大正から昭和初期に製造された物が多く、多岐にわたって収集され記録された音を通して、同世代の世相・風俗を研究することができる。</p> |
| 研究分担者 | 橋寺 知子 環境都市工学部・准教授 篠塚 義弘 博物館・学芸員 |
| 研究期間 | 2020年度～2021年度（2年間） |

| | |
|-------|---|
| 研究課題 | IRの大阪誘致に伴う社会問題に対する規制方法の考察 |
| 研究代表者 | 座主 祥伸 経済学部・准教授 |
| 研究概要 | <p>本研究では、IR誘致に伴う社会問題として懸念されるギャンブル依存症患者の増加を念頭に、合理性に欠ける人が消費者金融業者やヤミ金業者から融資を受ける際の法的規制の可能性について、医学的知見を踏まえた法学・経済学の社会科学のアプローチで考察する。考察の結果、法学において適合性の原則が妥当する人とは違う予測可能性のもとでの法規制を考えることができ、経済学においては法と経済学や行動経済学の新しいテーマの分析が可能となり、それぞれの分野において学問的な成果を期待できる。</p> <p>ギャンブル依存症を念頭に、法学や経済学で通常想定している合理的に判断できる人ではない人（合理性に欠ける人）を前提にした消費者金融を中心に規制方法を検討する。</p> |
| 研究分担者 | 多治川卓朗 法務研究科・教授 三島 徹也 会計研究科・教授 |
| 研究期間 | 2020年度～2021年度（2年間） |



『関西大学なにわ大阪研究』投稿規程

26 July 2018

1 投稿資格

投稿資格を有する者は次の通りとし、所属機関において研究倫理研修を受講していることを条件とする。

- (1) 関西大学なにわ大阪研究センター（以下、本センターという）において研究活動に従事している者、および従事した経験がある者。
- (2) 関西大学の専任教育職員。
- (3) 上記以外の者で、関西大学専任教育職員の推薦を受けた者。

2 投稿の内容・種別

投稿を受け付ける原稿は「なにわ大阪についての研究」に関するもので、種別は次のとおりとする。

- (1) 審査員の査読を希望する論文
- (2) 査読を希望しない論文
- (3) 研究ノート
- (4) 資料
- (5) その他（事前に本センターに問い合わせること）

3 投稿の体裁・分量

投稿は日本語（横書きまたは縦書き）または英語とする（それ以外の言語での投稿を希望する場合は本センターまで問い合わせること）。原稿は WORD もしくは TeX で作成し、PDF 形式に転換したファイルも添付して提出する。分量は、本誌の体裁（A4判で1ページおよそ1400字）で図表等を含めて最大20ページ以内とする。

4 掲載の決定

掲載の採否は、査読付き論文については審査員の査読を経て編集委員会が、それ以外の投稿については編集委員会が決定する。

5 著作権等の帰属

掲載が決定した投稿の著作権は投稿者（著者）に帰属する。ただし、本センターのホームページや各種電子ポータルなどに掲載・配布する電子複製・配布権は本センターに属するものとする。

6 抜き刷りの作成

投稿者は、掲載が決定した投稿の抜き刷りを作成することができる。30部までは無料、それ以上は有償とする。

7 投稿手続等

投稿は、投稿フォーム（本センターのホームページに掲載）を必ず添えて、下記まで送付すること。投稿の締切日は毎年度12月末日、ただし査読を希望する場合は11月末日とする。

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35 関西大学なにわ大阪研究センター
naniwa-osaka@ml.kandai.jp

【編集後記】

なにわ大阪研究第3号をお届けします。今号は研究ノート3篇からなります。拙稿はなにわ大阪にゆかり深い契沖の墨蹟紹介という、文献資料にかかわるもの、林副センター長と奥村・寺田氏は、文理融合型の最前線の研究、杉本前センター長は、現代の社会問題を取り上げたものと、それぞれ異なる研究方法の3篇での編集となりました。本センターの趣旨に沿った多様性が、偶然にもあらわれたかたちとなりました。

昨年10月1日より、杉本センター長から、責務を引き継ぎました。センターの充実に努めてまいり所存です。第1号には杉本センター長による本紙発刊の趣旨が掲載されています。その精神を引き継いで本紙も充実させていかねばなりません。どうか、さまざまな分野からの寄稿をお願いします。とくに、若い方々には、本誌を起点として発展していけるような場を提供したいとも思っています。意欲的な論文をお待ちしています。

2021年3月

関西大学なにわ大阪研究センター長
乾 善彦

関西大学なにわ大阪研究 第3号

発行日 2021年3月31日

発行者 関西大学なにわ大阪研究センター

〒564-8680

大阪府吹田市山手町3-3-35

TEL：06-6368-0095

印刷 株式会社 遊文舎

なにわ

大阪

研究

第 3 号

